

ふるさとテレワーク推進会議（第4回）

地域実証事業の進捗報告（6団体）

平成28年2月16日

住みよい信州×わーく²プロジェクト

資料4-1-1

代表団体	一般財団法人長野経済研究所		
実施地域	長野県塩尻市、富士見町、王滝村	地方移動人数/地元雇 用人数（目標）	地方移動人数：20人 地元雇人数：5人
地方進出企業	(株)コミュニティ・クリエイション、(株)クラウドワークス、東洋システム開発(株)、(合)KEMARI、ネットワンシステムズ(株)等		
事業概要	人口規模の異なる3市町村が、それぞれの実情に応じた施設において、一元化されたクラウド基盤における バーチャルオフィスと生活直結サービスを共同利用するテレワーク の仕組みを構築し、距離や時間を克服して、都市部の仕事をそのまま地方で続けられることを実証することにより、他の市町村へのテレワークの普及展開を促し、 都市部から地方への人と仕事の誘致 を実現する。		
実証期間終了後の予定	実証期間終了後も継続予定		



バーチャルオフィスの機能

- テレワーククラウド・テレワークモジュールシステム
各システムをクラウドサーバに集約した効率的な運用、ソフトウェア開発に必要な部品を集積
- テレワークデータ解析システム
ビッグデータ解析のためのデータベースソフトウェア等
- 雇用情報共有システム
仕事情報をテレワーカーが共有、仕事の分配・管理支援
- テレワークプロモーションシステム(マッチング等)
テレワーク環境・空き店舗・空き家の条件を検索

生活直結サービスの機能

- 防災情報伝達システム
あらかじめ設定したカテゴリとエリアのテレワーカーや地域住民に災害情報や防災情報を伝達
- 遠隔教育システム
学校法人信学会の運営する遠隔教育プログラムによりテレワーカーの子供の学習を支援
- 地域SNS
住民と地域SNSによりコミュニケーション

1. 現在の進捗状況・これまでの成果

【実証項目1】 都市部企業の一部業務を実施可能なセキュアなネットワーク環境の構築

- ・テレワークセンターしおじりは、塩尻情報プラザを経由してインターネットへ接続するとともに、VPNにより経路制御を行い、暗号処理によるセキュアなネットワークを構築した。一方、富士見森のオフィスはインターネット（VPNによる経路制御あり）を、ギークハウス信州王滝は木曽広域連合の専用線を、それぞれ経由して塩尻情報プラザに接続し、インターネットに接続し、セキュアなネットワーク環境を構築した。
- ・パーティションにより利用範囲を区切り、それぞれ企業のテレワーカーが就業可能な環境を整備した。
- ・これらの環境整備によって、サテライトオフィスを利用する都市部の異なる企業とそのテレワーカーが、それぞれセキュリティを保ちながら独立したネットワークを保持して企業活動が継続可能なネットワーク環境を提供できた。

テレワークセンター
しおじりの入口

名古屋とテレビ会議

タッチパネルで簡単
に接続

集中して作業に取り
組めた

普段はサブディスプ
レイとして

さまざまなデバイスでシンク
ラ環境へ接続（ノートPC）

1. 現在の進捗状況・これまでの成果

【実証項目2】 都市部企業の一部業務を実施可能なテレワーククラウド環境の構築

- ・塩尻情報プラザのサーバ室にクラウドサーバ機器を設置するとともに、最先端の技術であるDockerコンテナ型のPaasで構築されたテレワーククラウド環境を構築した。
- ・3市町村が共同利用するテレワーククラウドサービスにより、都市部企業の本社から派遣された社員が、本社と円滑にコミュニケーションをとり、都市部と同様に地方においても同等環境で働くことができることを実証した。
- ・また、利用する企業の社員が交代で利用するような状況においてもスムーズに対応できるよう、利用企業が遠隔からでも操作可能なクラウドサービス／設備を導入し、サテライトオフィス及びテレワーキングオフィスとしての利便性向上をアンケートにより検証中である。
- ・パーティションにより利用範囲を区切り、それぞれ企業のテレワーカーが就業可能な環境を整備した。
- ・これらの環境整備によって、サテライトオフィスを利用する都市部の異なる企業とそのテレワーカーが、それぞれセキュリティを保ちながら独立したネットワークを保持して企業活動が継続可能なネットワーク環境を提供できた。

【実証項目3】 都市部のソフトウェア開発環境と同等の開発環境(モジュール配信機能)の構築

- ・都市部でソフトウェアを開発する環境と同様な環境であるテレワークモジュールシステムを構築した。
- ・テレワーククラウドシステムに、ソフトウェア開発に必要なソフトウェアモジュールである部品を集積した。
- ・vTigerにおける機能であるモジュール・デザイナーで新規モジュールを生成した。
- ・vTigerにおける機能であるモジュール・デザイナーで生成した新規モジュールの作成工数を、既存モジュールの作成工数と比較して大幅に削減されることを検証する予定である。
- ・塩尻市内に設置されている防災・防犯関連センサーにより取得される情報を利用したソフトウェア開発の開発生産性・品質向上を検証し、その有効性を検証する予定である。
- ・vTigerにおける機能であるモジュール・デザイナーで生成した新規モジュールの作成工数を、既存モジュールの作成工数と比較して大幅に削減されることを検証する予定である。

1. 現在の進捗状況・これまでの成果

【実証項目4】 都市部と同等のデータ解析業務を実施可能なテレワークデータ解析システムの構築

- ・塩尻市においてセンサーネットワークにより収集されてきた児童見守りデータ、高齢者見守りデータ、鳥獣害データ、水位データを投入するためのAPIと、蓄積・保管するためのデータベースをMongoDBにより構築。また、簡易なデータ解析、および分析結果の可視化のためのサービスを含めたテレワークデータ解析システムを構築した。
- ・大規模なデータベースサービスと、安全にデータを投入／利用可能なAPIを実装しているため、例えば数十年分のさまざまな地域の天候データを投入し、プログラムから活用することも可能である。別提供のテレワークモジュール配信システムと併用することで、ビッグデータを活用したアプリケーション開発も可能である。
- ・併せて本システムでは簡便なデータ分析／可視化ツールも提供しているため、例えば時間別の降雨量グラフや、月別の漁獲データなどのグラフ化などを簡易に行うことが可能である。
- ・APIを用いてデータ解析可能なシステムであり、データ解析作業を地方で実現できることを実証中である。
- ・利用者が本システムのデータ解析サービスにログインし、分析のためのデータを抽出できるか検証中である。
- ・今後、地方において、データサイエンティスト育成とデータ解析業務のビジネス化の可能性を追求する。

Jupyter Water Level playground Last Checkpoint: a minute ago (unsaved changes)

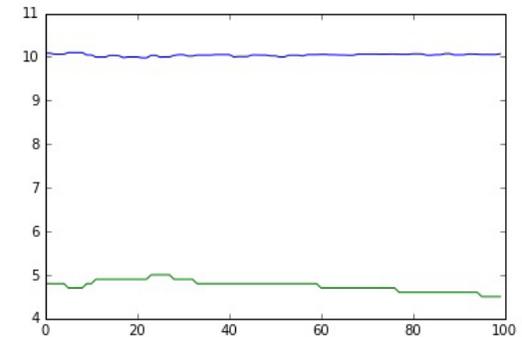
File Edit View Insert Cell Kernel Help

Code CellToolBar

```
sensor_name: water_level },
{'_id': '56926b09466917a2bb94a462',
'hash': {'created': '2016-01-10 23:30:33.063000',
'value': '8ff3b31793336a1a2c9c6a4970dad675'},
'items': [{'水圧': 10.063, '水温': 4.8}],
'sensor_date': '2013-03-11 11:51:10',
'sensor_geo': {'coordinates': [137.991049, 36.062791], 'type': 'Point'},
'sensor_geo_label': '',
'sensor_id': '1049',
'sensor_label': '水位',
'sensor_name': 'water_level'}}
```

```
In [8]: # 水圧、水温それぞれのリストを作る
water_pressure = [wp['items'][0]['水圧'] for wp in water_level_1049]
water_temperature = [wp['items'][0]['水温'] for wp in water_level_1049]
```

```
In [9]: # プロットしてみる
%matplotlib inline # インライン表示をするおまじない
x = range(wl1049_len)
plt.plot(x, water_pressure)
plt.plot(x, water_temperature)
plt.show()
```



1. 現在の進捗状況・これまでの成果

【実証項目5】 クラウドソーシング業務を在宅ワーカーに分配する業務仕分けシステムの構築

- ・都市部企業において発生する業務を地方の業務マネジメント機関において取りまとめ、クラウドソーシングにより、在宅ワーカーに業務を分配する業務仕分けシステムを構築した。
- ・業務仕分けシステムによって、在宅ワーカーに分配した業務の進捗管理が可能のため、クラウドソーシング業務の管理に活用した。
- ・従来実施していたマネージャーによる業務管理経費と、今般構築した業務仕分けシステムによるクラウドソーシングで行われる業務管理経費の比較を行うことにより、業務仕分けシステムによる管理の優位性を検証中である。

【実証項目6】 実証地域の魅力を発信するテレワークプロモーションシステム構築

- ・長野県内に移住を希望する都市部在住のテレワーカー及び移住によるテレワークを希望する従業員を雇用する都市部企業向けに、移住先市町村に関する行政情報や生活に直結する情報を一括提供し、移住希望者に有用な情報を提供するウェブサイト構築した。
- ・当該ユーザ情報を管理、分析し、実証地域の市町村において効果的なプロモーション施策を支援する機能を付加した。
- ・shinshu-telework.jpドメインを取得し、今後、継続的に運用していくことを見込んでいる。
- ・ふるさとテレワークの長野県内における推進体制として、住みよい信州×わーく²プロジェクトを母体として「信州ふるさとテレワーク推進協議会」を実証期間中に設立見込み（設立総会を平成28年2月18日に予定）。
- ・都市部の企業及びテレワーク希望者等に対し、広報活動を行うとともに、県内市町村への普及啓発事業にテレワークプロモーションシステムを活用していく予定である。

テレワークプロモーションシステムのPRサイト



豊かな観光資源とオープンソースの街、塩尻

街の特色

交通の要所として発展してきた街、塩尻

長野県のほぼ中央に位置し、太平洋側と日本海側の交通が交差する交通の要所であり、自然豊かな街。

国指定の文化財を数多く有し、重要伝統的建造物群保存地区である奈良井宿を始めとし、昔の日本の風情を残す宿場町がある。木曾平次地区は木曾漆器の産地であり、国内国外から人気のワイン醸造地も集積。

オープンソースデータを使った街づくりとしても有名で、先進的な取り組みが様々行われている。

地図

>> 塩尻市役所で詳しく調べる

1. 現在の進捗状況・これまでの成果

【生活実証項目1】テレワーカーが実証地域に溶け込む仕組みとしての地域SNSの構築

- ・地域住民とテレワーカーの効率的なコミュニケーションをサポートする地域SNSを構築した。
- ・テレワーカーが、実証地域における日常生活の困ったこと（例：ごみの出し方）などをSNS掲示板に質問し、市民が回答する取組を実証中。
- ・このサービスによって、生活環境が異なるテレワーカーやその家族が、いち早く地域住民と馴染み、地域住民の一人として地域活動などに参加するための取り掛かりとすることができる見込みである。

【生活実証項目2】安心して仕事ができるように防災情報を迅速に伝達する仕組みの構築

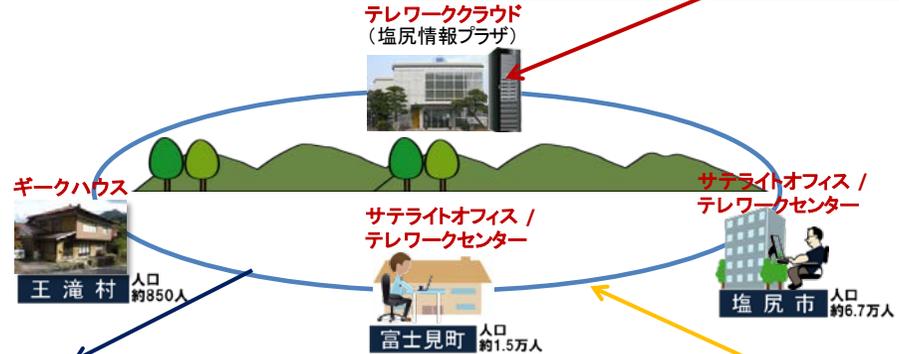
- ・実証市町村に移住したテレワーカーやその家族、入居企業、地域住民に対し、携帯情報端末向けに迅速な防災情報を逐次伝達するシステム（「信州まちレポ」）を構築した。
- ・防災情報伝達システムは、①地域を指定した防災情報入力機能、②地域を指定した防災情報伝達機能、③スマートフォン情報報告機能の3機能を有する。
- ・テレワークモジュールシステムのモジュール配信機能を活用し、防災情報伝達サービスの有効性を検証中である。

防災情報伝達システム（「信州まちレポ」）の機能概要

テレワーカーが安心して信州の自然の中で仕事ができるように防災情報を迅速に地域と内容を絞って自治体が提供する情報を表示・閲覧

地域を指定した防災情報入力機能

- 市町村が地域や状態をコード化によりあらかじめ入力
- 災害時には防災担当課と調整して緊急度に応じて発出するメッセージをスマホとメールに送出
- 外国人の対応としてバイリンガルで送出
- ID認証、登録者管理機能



地域を指定した防災情報伝達機能

- 送出された防災情報が指定された場所に居るスマホとメールに情報を伝達
- 外国人の対応としてバイリンガルで送出
- ID認証、登録者管理機能

スマートフォン情報報告機能

- 橋の崩落など、地元で起きた身近な事象をスマホアプリで防災部門に報告
- 利用者の安否をスマホアプリで報告
- ID認証、登録者管理機能

1. 現在の進捗状況・これまでの成果

【生活実証項目3】 都市部と同等の学校外教育環境の遠隔教育システムによる構築

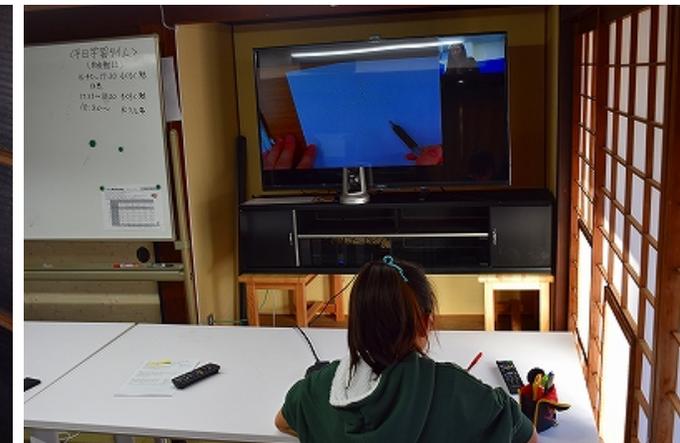
- ・ 地方で、都市部と同等の子育て環境の下で働くことができる教育環境を「遠隔教育システム」により整備した。
- ・ 王滝村のテレワーク拠点であるギークハウス信州王滝のICT設備を活用し、都市部から移住をしてきたテレワーカーの子どもたちに都市部と変わらない教育環境(特に学校外教育分野)を提供した。
- ・ 遠隔教育コンテンツとして、信学会ゼミナール(駿台提携)等の講義のライブ配信、講師によるマンツーマン指導、各生徒にあったカリキュラムのオンデマンド配信などを行った。



講師によるマンツーマン指導



講義のライブ配信



生徒にあったカリキュラムの配信

【生活実証項目4】 進出企業と長野県内大学生の間の交流促進

- ・ 実証地域においてテレワークを行う進出企業と長野県内に立地する大学の学生の交流会を実施する。
- ・ 学生がテレワーカー及び進出企業に対し、働き方や企業の実情について質問したり、企業が学生に対して、学生生活や将来の進路について質問するなどの交流を通じて、両者の関係を深めることを期待する。
- ・ 学生とテレワーカー及び企業の交流が可能であることを、交流事業に参加した学生、テレワーカー及び進出企業へのアンケートにより検証する。

1. 現在の進捗状況・これまでの成果

達成目標の進捗状況

① 実証事業参加人数・利用者数

	項目	達成目標	実績
ア	塩尻市10人、富士見町10人、王滝村5人(企業利用者数)	合計25人	36人(2/1時点)

② 雇用創出

	項目	達成目標	実績
ア	通勤時間が無くなることでこれまで時短勤務でしかできなかった社員がフルタイム就業できた、又は、地方の自然環境で効率的なソフトウェア開発を行う数	類型A 2人	類型A 2人
イ	育児や介護等により退職せざるを得なかった社員の継続雇用数	類型B 1人	確認中
ウ	クラウドソーシングにより、仕事を探した雇用者数	類型C 5人	確認中
エ	平成27年度末までの諏訪東京理科大学卒業後の就職先確保(予定)	類型D 1人	確認中
オ	実証市町村への企業移転や新規起業の増加による雇用創出	新規起業 1社	確認中

1. 現在の進捗状況・これまでの成果

達成目標の進捗状況

③ 本事業を契機とした移住者数

	項目	達成目標	実績
ア	実証期間中の移住者数(類型A～類型Dによるテレワーカー25人とその家族等10人)	35人	確認中

④ 雇用環境改善等のテレワークの有効性

	項目	達成目標	実績
ア	テレビ会議実施数	50回	29回(1/22時点)
イ	シミュレーションによるさまざまな脅威による事業停滞軽減	1回	確認中

⑤ サテライトオフィス／テレワークセンター運営のノウハウ

	項目	達成目標	実績
ア	クラウドソーシングで行われるマネジメントによる管理経費	従来比減	確認中
イ	テレワークプロモーションシステムで行う宣伝待ち受け経費	従来比減	確認中
ウ	進出企業に対する相談対応件数	20件	22件
エ	他地域からの照会対応件数(他地域への運営ノウハウの普及)	5件	5件

1. 現在の進捗状況・これまでの成果

達成目標の進捗状況

⑥ 地方創生の観点

	項目	達成目標	実績
ア	実証事業参加人数(①ア再掲)	25人	36人(2/1時点)
イ	実証期間中の移住者数(③ア再掲)	35人	確認中
ウ	地元における雇用者数(②ウ再掲)	5人	確認中
エ	既存地元資産(公共施設、遊休施設等)の活用	5施設	5施設
オ	地域経済に与える経済波及効果	年間1億円	確認中
カ	ICT活用勉強会等イベントの実施	2回	4回(1/29時点)
キ	課外学習塾の実施(地域で支える教育力の向上)	5回	2回

1. 現在の進捗状況・これまでの成果

現時点で得られた効果・手ごたえ

※事後アンケートで情報収集予定、ここではあくまで可能性について言及しています

分類	効果・手ごたえ	参加者コメント
業務	集中して業務を行うため仕事の能率性が上がる	<ul style="list-style-type: none">✓ 作業に没頭するには最適✓ 非常に快適で一人で集中して行う作業には適した環境であると感じました✓ 集中して業務に向き合えるので、思考系は向いている
コミュニケーション	集中して業務を行える一方でコミュニケーションに課題があるが、工夫次第で解決可能	<ul style="list-style-type: none">✓ 広報・IR室定例会議にテレビ会議システムで参加したが、滞りなく会議に参加し発言することができた
ファシリティ	通信環境を整えれば、本社とほぼ変わらないストレスフリーな環境で働ける	<ul style="list-style-type: none">✓ 無線LAN経由でVDIで社外webへのアップロードを行ったが、全く問題なく社外webを更新することができた✓ 無線LANの速度は下り40M程度あり本社環境と変わらず、Web、メール、業務システムの利用に特に問題なし

副次的な効果として、「都会の喧騒から離れるため環境としては落ち着く」などの精神面での効果も実感できた。

2. 直面した課題と解決策

事業開始で直面した課題

※事後アンケートで情報収集予定、優先順位別

分類	課題	参加者コメント
コミュニケーション	本社側、テレワーカー双方の業務状況を見える化し、コミュニケーションがとりやすい環境にすること	<ul style="list-style-type: none">✓ 会社で起きている状況をどうやってタイムリーに入手できるか、コミュニケーションツールだけだと限界を感じた✓ 管理調整業務には関係者とのコミュニケーションが適宜迅速に取りづらいため不向きと思われる✓ 2、3日の短い勤務なら気にはならないが、長期滞在を考えた場合に孤独感を感じるだろう
業務	生産性を維持・向上するためには労務管理に工夫が必要	<ul style="list-style-type: none">✓ 情報収集に時間をかけすぎてしまい、気付いたら17:30を回っていたため情報収集も時間と区切りをある程度の粒度を決めて実施する必要がある✓ 社歴が長い者は、リモートワークで業務ができるが、新卒者などがテレワークをする場合には、別途配慮が必要だと思われる
セキュリティ	入退室管理の徹底や音漏れ防止等、物理的なセキュリティを確保すること	<ul style="list-style-type: none">✓ TV会議時の声が周りに漏れる(多数の人が問題として提起していた)✓ 入退室管理やパーティションの上部が空いている点など物理的なセキュリティリスクがあると感じました

2. 直面した課題と解決策

課題:

本社側、テレワーカー双方の業務状況を見える化し、コミュニケーションがとりやすい環境にすること。

想定している解決策(検討中):

声掛けのような気軽なコミュニケーションができるようチャットツールを利用したが、本ツールだけでは不十分な側面もあると感じられた。

上記ツールに加え、本社側、テレワークセンター双方をテレビ会議で常時接続することで、同じ空間にいるのと同等の職場雰囲気を作る。

テレビ会議は「特定の時間に、打ち合わせのための道具」として利用しているが、今ある(持ち込んだ)ツールの使い方を工夫することで対応する。

※「テレワーク時に、空間を共有するための道具」としても利用する

その他気づき:

企業誘致しやすいようにショールーム的な設備を設ける。

※快適・安全・安心に業務するために必要になるだろうツールや備品を展示し、各企業がスムーズにテレワークセンターで業務開始できるような仕掛け。

例) 入退室管理のリーダー、テレビ会議端末、無線LAN、サブディスプレイ等

初めてテレワークを行う企業はどんなツールが必要か整理するのも大変なはず。

備品を配置したときの雰囲気に共感してもらうことも企業誘致促進の一助となると考えられる。

2. 直面した課題と解決策

課題:
生産性を維持・向上するためには労務管理に工夫が必要。

解決策:
業務予定と実績を報告し仕事にメリハリをつける。
※業務内容が見える化することで周囲の理解も得やすくなる。
また、働きすぎ・働かなさすぎの防止にもなる。

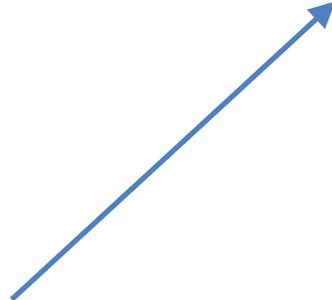
【前日】

<1/18実績> 予定通り終了したもの==>★
12:40-13:00 現地確認、セットアップ ★
13:00-13:10 メール、為替、社内HPチェック、勤怠報告 ★
13:10-13:30 週次報告チェック ★
13:30-14:00 銀行支払承認処理★
14:00-15:00 経営委員会資料作成 ★
15:00-15:30 株式売却事務 ★
15:30-16:30 チームミーティング★
16:30-17:00 為替テーブルチェック ★
17:00-17:30 業務日報作成、報告 ★

<1/19予定>
09:00-10:00 メール、為替、社内HPチェック、株式売却確認
10:00-12:00 社内MTG
13:00-14:00 為替課題資料の検討、
14:00-15:00 国際税務の調査
15:00-17:00 海外支社 4Q報告書作成
17:00-17:30 業務日報作成、報告

- <優先順位>
- ① 為替予約課題の纏め (30%: 項目確認まで)
 - ② 株式売却注文 (もしあれば)
 - ③ 海外支社 4Q報告書作成 (30%: 項目確認まで)

前日に計画した業務
予定に対して、当日
の実績を報告する



翌日の業務予定と
取組みの優先順位
を報告する

【当日】

<1/19実績> 予定通り終了したもの==>★
09:00-10:00 メール、為替、社内HPチェック、株式売却確認 ★
10:00-11:00 社内MTG(ビデオ会議) ★
11:00-12:00 海外支社MTG(ビデオ会議)
13:00-13:30 JP(xxさん)とMTG(ビデオ会議)
13:30-14:00 メール対応
14:00-14:30 zzさんと打ち合わせ(電話)
14:30-15:00 国際税務の調査報告書の確認 ★
15:00-15:30 海外支社 3Q報告書のチェック
15:30-16:30 コーポレートカードチェック、yyさんと電話会議
16:30-17:00 海外支社 4Q報告書作成 ★
17:00-17:00 為替テーブルチェック ★
17:00-17:30 業務日報作成、報告 ★

<1/20予定>
09:00-09:30 メール、為替、社内HPチェック、株式売却確認
09:30-12:00 海外支社 4Q報告書作成
13:00-15:00 為替課題資料の検討、
15:00-16:00 給与振込
16:00-16:30 業務日報作成、報告 ★
16:30-18:00 財務経理部MTG(ビデオ会議)

- <優先順位>
- ① 為替予約課題の纏め (30%: 項目確認まで)
 - ② 株式売却注文 (もしあれば)
 - ③ 海外支社 4Q報告書作成 (30%: 項目確認まで)

2. 直面した課題と解決策

テレワーク実証に参加した、財務経理部門の視点での気づき

紙による承認行為：

現状、システムデータと紙媒体（ERPデータ・請求書等）の両方が承認に必要となる業務フローであるが、もし、請求書や領収証を電子化することが可能となれば、承認行為もテレワークで問題なく行えるだろう。
※紙文化を減らすように業務プロセスを変えていく工夫

財務経理部門の業務のアウトソース：

アウトソース可能な業務はたくさんあり、財務や経理の「処理」の部分が相当する。
SEの開発作業を地域に呼び込むことに注目されがちだが、管理業務にあたる仕事を外出しすることで企業側にコストメリットがあるのであれば、ふるさとテレワーク普及のきっかけの1つになるのではないかな？
※テレワーク対象業務の裾野を広げる、IT企業以外への積極的な働きかけを行う等

業務アウトソースの際に：

業務内容的に時間にそこまで縛られないので、必ずしも1日8時間のフルタイムでアウトソースする必要はないのではないかな？

また、アウトソースの際に仕事をまるまると委託するのは作業品質の観点での懸念事項となるだろうから、管理者を地域の拠点に置く等の工夫は必要。

例) 管理者は本社から派遣、作業者は地域の人材を雇用

そうすることで指示も出しやすくなるし、受ける方も楽になるだろうし、指示を出してから受けるまでのレスポンスが遅くなるといった問題もないので都心部で行う業務とほぼ同等のことができるだろう。

3. その他

ふるさとテレワークの普及展開に向けて「信州ふるさとテレワーク推進協議会」を設置します

1 目 的

首都圏の一極集中を是正し、都市部から地方への人と仕事の流れを生み出すことによって、地方創生を実現するため、都市部の仕事をそのまま地方で行う「ふるさとテレワーク」の推進体制を構築し、広く県内に普及展開を図る。

2 事業内容

(1) ICT基盤の利用促進

総務省実証事業の「住みよい信州×わーく²プロジェクト」及び「信州テレワーク誘致促進事業」で構築したシステムの利用促進

(2) 広報及び普及啓発の実施

都市部の企業及びテレワーク希望者等に対し、広報活動を行うとともに、県内市町村への普及啓発事業の実施

(3) テレワーク相談・支援

テレワーク希望者等からの相談対応

3 役員及び構成員

(1) 役 員

会 長 長野県企画振興部情報政策課長

副会長 塩尻市情報政策課長、富士見町総務課長、王滝村村おこし推進課長、信濃町総務課長

事務局 長野県企画振興部情報政策課

(2) 構成員

「住みよい信州×わーく²プロジェクト」構成員等及び参加を希望する長野県内市町村

4 設置日

平成28年2月18日（木）（第1回推進協議会開催日）

3. その他(メディア掲載状況一覧表(1))

	実証地域	日付	媒体名	報道タイトル	備考
1	07長野県塩尻市、富士見町、王滝村	2015年5月15日	信濃毎日新聞	富士見のテレワークタウン構想 拠点の山荘改修工事 町会、請負契約議案を可決	
2	07長野県塩尻市、富士見町、王滝村	2015年6月6日	信濃毎日新聞	富士見のテレワークタウン構想 ネット使って遠隔勤務「充実の日々」体験者語る	
3	07長野県塩尻市、富士見町、王滝村	2015年6月16日	市民タイムス	空き家活用IT拠点に 補正予算に修繕費1260万円	
4	07長野県塩尻市、富士見町、王滝村	2015年6月23日	信濃毎日新聞	「テレワーク」県内移住を促進へ 総務省モデル事業に県が提案 塩尻・富士見・王滝を拠点に	
5	07長野県塩尻市、富士見町、王滝村	2015年7月7日	business network.jp	「ふるさとテレワーク」の推進に向け、総務省が地域実証の委託先決定	
6	07長野県塩尻市、富士見町、王滝村	2015年7月8日	信濃毎日新聞	総務省の「テレワーク」モデル事業 塩尻・富士見・王滝拠点の事業、採択 県など提案	
7	07長野県塩尻市、富士見町、王滝村	2015年7月13日	日本情報産業新聞	自治体関連アーカイブス(2015年5-6月)、ひとしごと呼び込む、ふるさとテレワーク推進を、巻口・総務省情報通信国際戦略局参事官	
8	07長野県塩尻市、富士見町、王滝村	2015年7月20日	日経グローバル	地方に住み本社勤務 地方創生へ自治体・企業名乗り	
9	07長野県塩尻市、富士見町、王滝村	2015年7月30日	山陰中央新報	ネットもっと活用し移住者呼び込みへ／隠岐の島でシンポ	
10	07長野県塩尻市、富士見町、王滝村	2015年8月29日	信濃毎日新聞	富士見のテレワークタウン構想 運営に協力隊員募集 ホームオフィス5軒増設 定例会は3日から	
11	07長野県塩尻市、富士見町、王滝村	2015年9月3日	読売新聞	ネット在宅勤務促す改修 IT技術者呼び込む 王滝 子育て世代支援策も	
12	07長野県塩尻市、富士見町、王滝村	2015年9月5日	信濃毎日新聞	県が地方創生交付金活用事業 介護人材定着を支援 テレワークの環境整備 9月補正予算案計上へ	
13	07長野県塩尻市、富士見町、王滝村	2015年9月14日	AERA	いいとこ取り、2拠点ライフ 都会も田舎もあきらめない暮らし方	
14	07長野県塩尻市、富士見町、王滝村	2015年9月29日	PR TIMES	長野県富士見町テレワークタウン計画・オフィス施設参加事業主募集 [Route Design]	
15	07長野県塩尻市、富士見町、王滝村	2015年10月10日	信濃毎日新聞	富士見のテレワークタウン構想 都内システム会社、シェアオフィス利用第1号に 地元採用の意向	
16	07長野県塩尻市、富士見町、王滝村	2015年10月26日	日経MJ(流通新聞)	長野県富士見町——「よそ者」目線で企業呼ぶ(イキイキ地域)	
17	07長野県塩尻市、富士見町、王滝村	2015年10月28日	信濃毎日新聞	焦点＝地方創生交付金の配分発表 広域観光・人材育成目立つ 県6事業、市町村59事業	

3. その他(メディア掲載状況一覧表(2))

18	07長野県塩尻市、富士見町、王滝村	2015年11月7日	信濃毎日新聞	富士見のテレワークタウン構想 6社が利用申し込み 来月稼働、住民と交流会も	
19	07長野県塩尻市、富士見町、王滝村	2015年11月12日	SBクリエイティブ ビジネス+IT	長野県塩尻市のテレワークに学べ！子育て期間を「マイナス」から「チャンス」へ	
20	07長野県塩尻市、富士見町、王滝村	2015年11月14日	信濃毎日新聞	富士見町の地方版総合戦略 人口減少対策柱に素案 数値目標示す	
21	07長野県塩尻市、富士見町、王滝村	2015年11月16日	NRIパブリックマネジメントレビュー	IoTと地方創生－情報通信技術の「使いこなし」から「仕立て上げ」へn 転換－	
22	07長野県塩尻市、富士見町、王滝村	2015年11月29日	長野日報	富士見町への移住促進「オフィス」来月12日稼働	
23	07長野県塩尻市、富士見町、王滝村	2015年11月29日	中日新聞	ギークハウス 王滝に開設 学習塾の授業ネットで受講 住民との交流の場にも	
24	07長野県塩尻市、富士見町、王滝村	2015年11月29日	信濃毎日新聞	王滝に古民家活用のIT拠点が完成 遠隔授業、来月中旬スタート 総務省のモデル事業	
25	07長野県塩尻市、富士見町、王滝村	2015年12月1日	毎日新聞	王滝にギークハウス IT専門家らが御嶽山ろく生活 東京でできない挑戦を	
26	07長野県塩尻市、富士見町、王滝村	2015年12月10日	朝日新聞	王滝村に“最先端”古民家 ネット環境整え、IT使い働く人の移住募る	
27	07長野県塩尻市、富士見町、王滝村	2015年12月13日	信濃毎日新聞	富士見のテレワークタウン構想 シェアオフィスが開所	
28	07長野県塩尻市、富士見町、王滝村	2015年12月13日	中日新聞	遠隔勤務で仕事充実 サテライトオフィス拠点施設 富士見に開設 「斬新な発想に期待」	
29	07長野県塩尻市、富士見町、王滝村	2015年12月13日	長野日報	「森のオフィス」オープン 富士見町 誘致8企業が入居	
30	07長野県塩尻市、富士見町、王滝村	2015年12月17日	毎日新聞	テレワーク用「森のオフィス」富士見町が開設	
31	07長野県塩尻市、富士見町、王滝村	2015年12月17日	LCV-TV	富士見など15地域 テレワークで会議(富士見町)	
32	07長野県塩尻市、富士見町、王滝村	2015年12月18日	business network.jp	「ふるさとテレワーク全国PR会議」で15地域が実証実験の状況報告——企業の生産性向上や人材確保につながる？	
33	07長野県塩尻市、富士見町、王滝村	2015年12月20日	朝日新聞	大自然の中、最先端オフィス 世界トップ級の光通信 富士見町整備	
34	07長野県塩尻市、富士見町、王滝村	2015年12月22日	テレビ松本コミュニティチャンネル	テレワーク地域実証事業PR会議 (富士町)	
35	07長野県塩尻市、富士見町、王滝村	2015年12月24日	テレビ松本コミュニティチャンネル	テレワークセンターしおじり開所式	

3. その他(メディア掲載状況一覧表(3))

36	07長野県塩尻市、富士見町、王滝村	2015年12月25日	信濃毎日新聞	塩尻市が「テレワーク」拠点、市街地に開設 市振興公社施設の一角	
37	07長野県塩尻市、富士見町、王滝村	2015年12月25日	市民タイムス	塩尻にテレワーク施設 国の実証事業スタート	
38	07長野県塩尻市、富士見町、王滝村	2015年12月26日	信濃毎日新聞	地域おこし協力隊 諏訪地方初の着任 女性2人「富士見森のオフィス」運営 働き方発信や地域交流 意欲	
39	07長野県塩尻市、富士見町、王滝村	2015年12月29日	信濃毎日新聞	15南信市町村の3大ニュース 富士見町 (1) テレワーク拠点「富士見森のオフィス」開所	
40	07長野県塩尻市、富士見町、王滝村	2016年1月2日	テレビ松本コミュニティチャンネル	ICT先進都市～塩尻 テレワーク事業へのチャレンジ	
41	07長野県塩尻市、富士見町、王滝村	2016年1月2日	信越放送テレビ	新春経済特番2016 ギークハウス王滝OPEN	

3. その他

「テレワークセンターしおじり」開所式の様子がメディアに取り上げられました。

「テレワーク」拠点
塩尻市街地に開設
市振興公社施設の一角

塩尻市は24日、インターネットを使って職場と離れた場所での勤務をする「テレワーク」の拠点となる「テレワークセンターしおじり」をオープンさせた。写真。大門商店街の商業施設「ウイングロード」3階にあり、3社が入る予定だ。

市が県、富士見町、王滝村などと共同で提案した総務省の事業。地方への移住促進などにつながる可能性がある。

はじめ、現在まちづくりを話聞いたと、さまざま催しの後、さん手作りなどを食べながらあった。

この場所を留意。参加者振る舞うよいう。

に参加した料理と会話した草深さ、人が集まえてうれし

センターは、市振興公社の雇用支援施設「KADO」の事務所の一部を縦横1・7メートルの壁で区切り、「サテライトオフィス」3部屋と、自由に使える2部屋を設けた。インターネット回線が整備さ

れ、各社はパソコンやテレビ電話で業務をする。

入居企業で、通信ネットワークの構築や保守管理を行うネットワンスシステムズ(東京)の上野潤二・ソリユーション営業部長(43)は式典で「このテレワークを成功させ、地域活性化の一助になればうれしい」とあいさつ。さまざま部門の社員が交代で勤め、テレワークが可能な仕事を見つけたという。ほかの2社は近く決まる予定。

事業の期間は来年3月まで、市は4月以降も事業継続を検討している。



市民タイムス

塩尻にテレワーク施設

国の実証事業スタート

大都市の企業に勤めとテレワーク推進のため最新の情報通信機器を活用して仕事を地方でできるようにする、総務省の「ふるさとテレワーク」事業の一環として、塩尻市に24日、テレワークセンターしおじりが開所した。来年3月まで東京都などのICT(情報通信技術)関係企業3社が入居して実際に社員が業務を行う課題を洗い出す。

大門一番町の商業施設・ウイングロードにある市振興公社のオフィスの一部を改装し、約3平方メートルの部屋を5室設けた。うち3室は機密保持のために鍵がかけられる部屋で、3社が使用する。同事業では現在、全国15地域で実証実験が行われている。テレワークセンターしおじりに関する提案は、一般財団法人長野経済研究所が中心となり、県と塩尻市、王滝村、諏訪郡富士見町、信州大学などが共同で行った。

ユニーがパソコンを持ち込むだけで円滑に業務を行えるようにクラウドシステムを活用して3市町村で

共通のテレワーク環境を整える。テレワークの子供の学習を支援する遠隔教育システムなども作る。

総務省からの委託費5700万円のほか、地方創生先行型に乗せ交付金を活用する。

開所式で小口利幸市長は「地方での就労の本拠となるようにしたい」と期待を寄せた。実験に参加する企業のネットワンスシステムズ(東京都)は来年1月から2月にかけて、社員延べ10人が4週間センターの部屋で仕事をし、テレワークの可能性を探る。長野経済研究所は3月に総務省に成果を報告する。

4月以降もテレワークセンターは継続するが、運営主体は未定となっている。

(柳 純一)

教文センター改修を要望

松本運営委 市教委に答申

施設の老朽化が進む運営委員会(会長・安松本市教育文化センター(里山辺)の将来像について、市教育委員、市教委に答申した。安江会長が市役所に赤羽郁夫教育長を訪ね、答

経済・総合 (第3種郵便物認可)



テレワークセンターしおじりの1室

3. その他

平成28年2月3日（水）に開催された長野県自治体情報化推進フェアにて、展示会場と「テレワークセンターしおじり」をテレビ会議で繋ぎ、テレワークセンターで実際に働いている様子をデモンストレーションしました。

長野県自治体 情報化推進フェア



開催概要

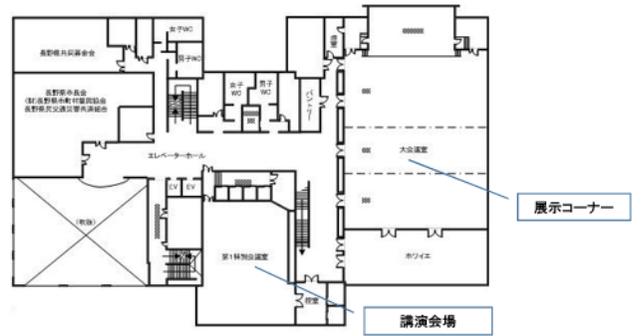
名称
【長野県自治体情報化推進フェア】
テーマ
ICTで広がる、近未来
開催にあたって

県内自治体の情報化の一層の推進のため、費用対効果に優れ、利用者の視点に立った利便性の高い先進的な情報システムや、地域を元気にする便利な行政サービス、効果的でセキュリティに強い電子自治体の実現に資する最新のシステムの照会・展示・デモンストレーションの実施及び、行政サービスの高度化、マイナンバー関連、女性活躍推進、サイバー攻撃関連に関する基調講演、セミナーを開催します。

会期
平成28年2月3日（水） 9：30～16：30

会場	長野県自治会館 大会議室「展示」 第1特別会議室「講演」 小会議室「セミナー」
住所	長野県長野市大字西長野字加茂北143-8
電話	026-232-4923

長野県自治会館 フロア案内図（2F）

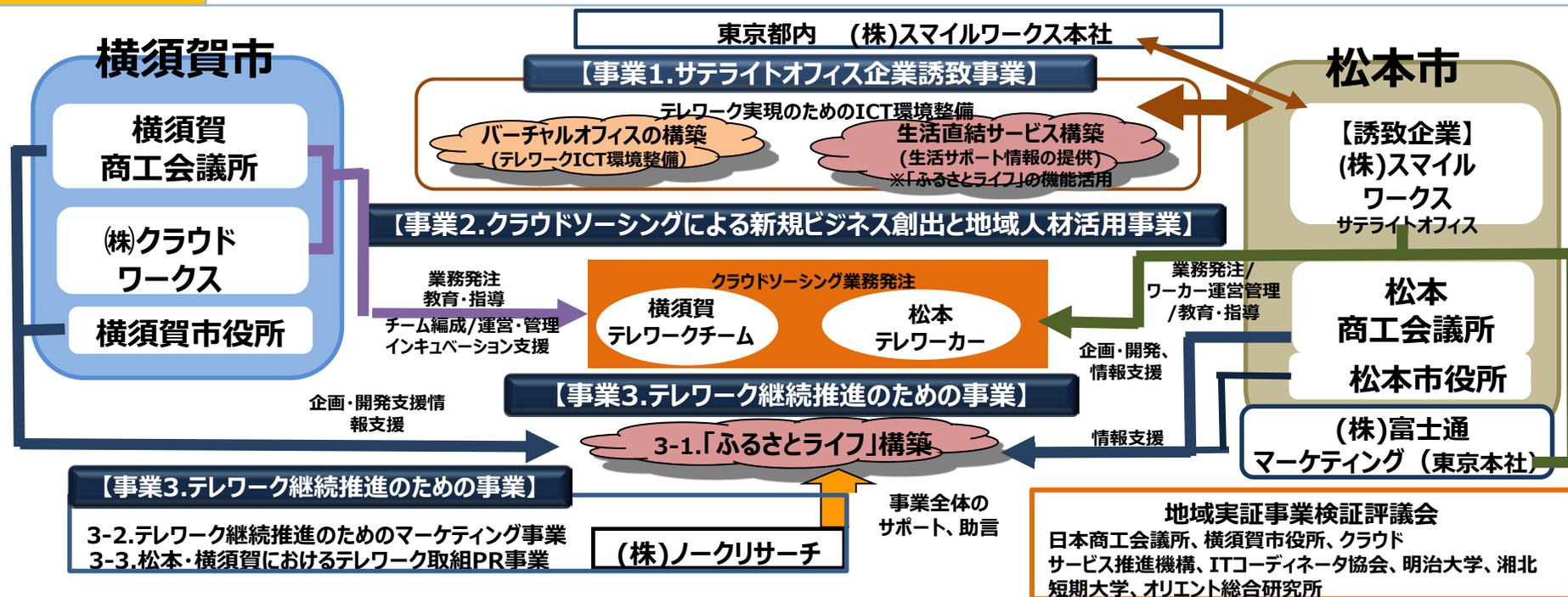


「セミナー」会場は、1F小会議室となります。

横須賀・松本商工会議所地域連携モデル

資料4-1-2

代表団体	株式会社 ノークリサーチ		
実施地域	神奈川県横須賀市、長野県松本市	地方移動人数/地元雇 用人数 (目標)	地方移動人数：1名 地元雇人数：50人 (目標)
地方進出企業	株式会社スマイルワークス		
事業概要	1.サテライトオフィス企業誘致事業 2.クラウドソーシングによる新規ビジネス創出と地域人材活用事業 3.テレワーク推進のための事業 (3-1誘致促進用専用基盤構築 3-2テレワーク継続推進のためのマーケティング事業 3-3横須賀・松本におけるテレワーク取組PR事業)		
実証期間終了後の予定	実証期間終了後も継続予定 (日本商工会議所モデルとして)		



0. 私たちの事業で実証したこと(したいこと)

横須賀事業

「横須賀事業＝ コミュニティ構築型テレワーク」

- ・“テレワーク”という新しい働き方の提供により、働くことの切っ掛けとしてのコミュニティを創出。
- ・地元の緩やかなコミュニティでの繋がり、多くの“お母さん達”がテレワークにチャレンジしやすい環境、仕組みを構築。
- ・テレワーカー未経験者でもコミュニティでの活動を通じてステップアップ。
- ・商工会議所のインキュベーション活動により、専門分野に特化したグループ化が今後の展開

松本事業

「松本事業＝専門特化型テレワーク」

- ・専門スキルを有するテレワーカーを一般公募から発掘して、仕事をしてもらおうノウハウを蓄積。
- ・即戦力のテレワーカーにより、発注する企業の業務遂行への即効性を確認できた。
- ・テレワークという新しい働き方への訴求、啓蒙に繋がり、専門職以外にもクラウドソーシングにより、汎用的な働き方も提供することが今後の展開
- ・商工会議所の持つ地元での信頼性や自治体、地域経済界やメディアとの連携

今後の 展開計画

- ・横須賀、松本の事例はパッケージ化され日本商工会議所を通じて全国へ！
- ・商工会議所を中心とした活動により、地域の自立した経済サイクルの構築！
- ・地域毎の課題を確認し、“人”、“企業”、“ツール”などのすでにあるリソースを活用して地域創生モデルを構築する！

1. 現在の進捗状況・これまでの成果

実証事業1.サテライトオフィス企業誘致事業（松本事業）

～ サテライトオフィスで何を行ったか？ ～

概要/目的	松本市内にサテライトオフィスを開設し、社員の移転による業務遂行時の生産性変化と課題の把握、移転社員の適性把握、テレワークの有効性の把握。
移転企業	(株)スマイルワークス（東京）（同社機能の一部の移転）
移住社員数	1名（男性、30代）
業務内容	<ul style="list-style-type: none"> ・同社クラウドシステム開発の指示・調整 ・会計業務BPOのテレワーカー発掘 ・クライアント開拓
移住環境	松本市駅より徒歩5分程度の集合住宅に「住居兼オフィス」として9/1開設
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.バーチャルオフィス環境の構築・整備 2.生活直結サービスの構築 3.（リアルでのコミュニケーションとして）松本市役所、松本商工会議所による移住社員の生活面サポート



1. 現在の進捗状況・これまでの成果

実証事業1.サテライトオフィス企業誘致事業（松本事業）

進捗/達成状況

～ サテライトオフィス移住者のために何をしたか？ ～

1.バーチャルオフィス環境の構築・整備 （移住者のテレワーク環境を整備した）

⇒移転企業（スマイルワークス）のITツールを活用する事で、9月の移転時に即時に利用可能とした。
⇒後述する生活直結サービス「ふるさとライフ」内にバーチャルオフィスサイトを12月に開設した。

2.生活直結サービスの構築 （移住者の生活を支援した）

⇒ ふるさとライフサイト内に「まつもとライフ（松本生活情報サイト）」として12月より公開。
※同時に平行して実施している横須賀地区事業の「横須賀ライフ」も公開

3.松本市役所、松本商工会議所による移住社員サポート （移住者及び移住企業の定住を継続するための支援を行った）

⇒移住社員の生活のフォロー以外に「テレワーカーの 発掘」「業務発注企業の開拓支援」で大きく貢献。

⇒移住社員は当初抱えていた不安（孤独感や自己管理など）については時間経過の中で、生活や仕事にも徐々に慣れ、地元の商工会議所のサポート体制があることで、首都圏にいた時と同様の業務効率を実現。

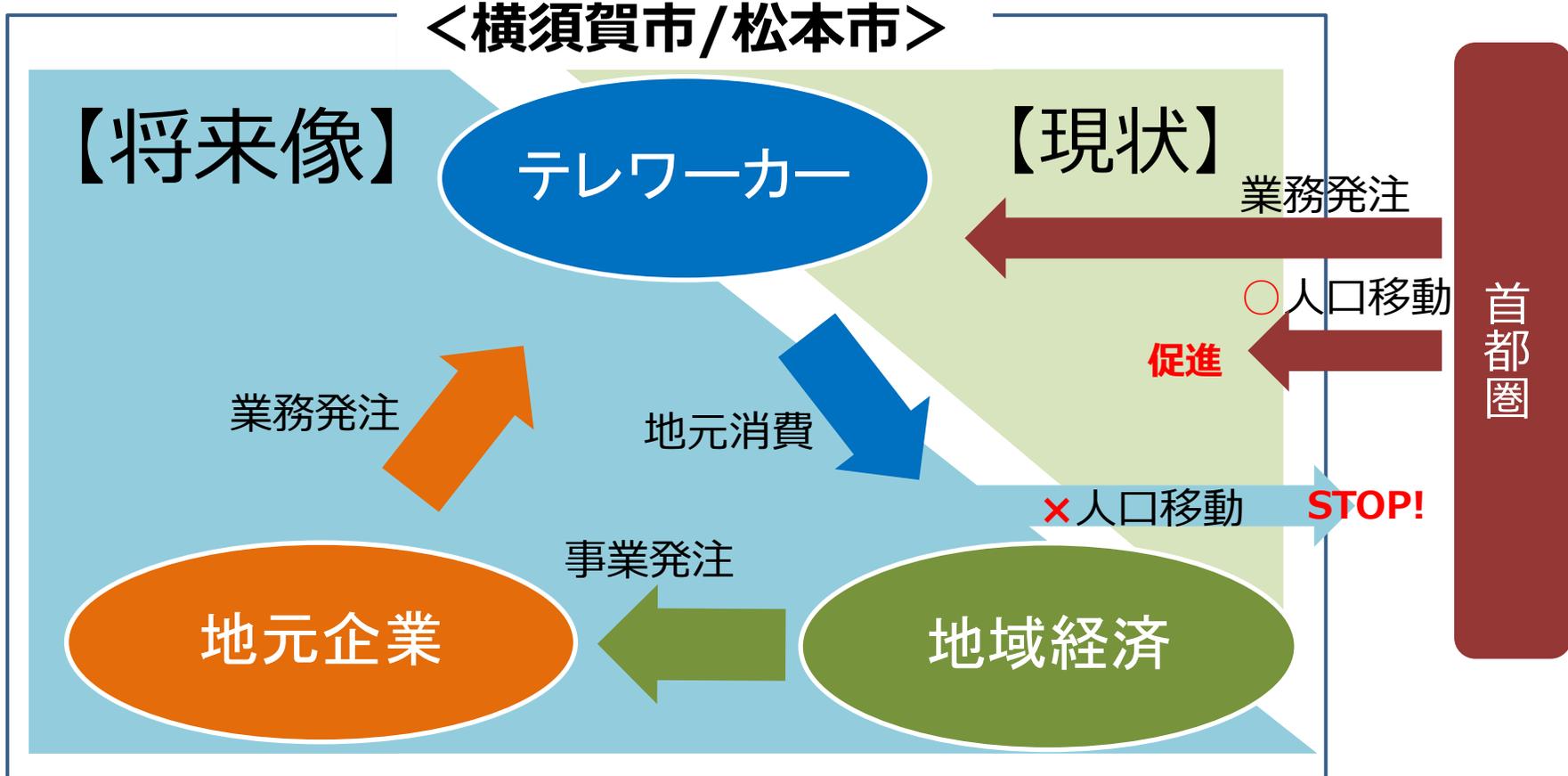
1. 現在の進捗状況・これまでの成果

実証事業2.クラウドソーシングによる新規ビジネス創出と地域人材活用事業

進捗/達成状況

～ なぜこの事業が地域を活性化できるのか？～

横須賀市、松本市の地域経済を刺激し活性化すること。それが人口流出を抑え、将来的には首都圏から企業、個人、仕事を招き入れる事につながる。



1. 現在の進捗状況・これまでの成果

実証事業2.クラウドソーシングによる新規ビジネス創出と地域人材活用事業

① 在宅テレワーカーの発掘/募集

～ どうやってワーカーを発掘したか？ ～

(1)横須賀事業

- ・横須賀商工会議所と地域の主婦コミュニティ（お母さん大学横須賀支部）が連携して、一般の主婦が対象。
- ・同コミュニティが発行している新聞や参加者の口コミで募集。

(2)松本事業

- ・会計業務（日商簿記2級または3級以上）、SE経験者（またはMicrosoft-Accessの経験者）などの専門スキルを有する人が対象。
- ・松本市内の上記条件に合致する主婦を対象に商工会議所からメディア、広告を通じて一般募集。

百万母力の子育て情報紙 www.okaasan.net/ 月刊 お母さん業界新聞 VOL.46
11月号 11月18日発行
発行: お母さん大学横須賀支部 横須賀市立中央図書館
〒218-8501 横須賀市中央1-1-1
編集: 横須賀市立中央図書館
電話: 046-251-1101
kiyomi75@yahoosai.jp
Facebook! お母さん大学横須賀支部

お母さんが活き活きと
今のスキルを活かして!
楽しく仕事をしながら
お母さんの仲間づくり!

自宅で仕事をするお母さんは「ステキ」です!
～クラウドソーシングと女性の新しい働き方～

今、子育てのお母さんの中には、子どものお世話をしながら、仕事ができず悩んでいる、経験を活かして仕事を探している、お母さんばかりではない。仕事したいけれど働けない方がたくさんあります。
働き方改革によって、働きやすい環境が整っています。在宅ワーク、クラウドソーシングなど、新しい働き方があります。
今回は、お母さん大学横須賀支部が、子育てのお母さん同士でスキルを活かして新しい働き方を仕事にするなら、横須賀のお母さん達の新しい働き方をご紹介します。お母さんのスキルアップをサポートしていきます。
子育てしながら、長く働きたい、副業にしたいを希望します。横須賀商工会議所やクラウドソーシングなどを通して、お母さん同士で新しい働き方を仕事にするなら、子育てのお母さん同士なら、新しい働き方があります。子育てのお母さん同士なら、新しい働き方があります。子育てのお母さん同士なら、新しい働き方があります。

クラウドソーシングでお仕事をするテレワーカー募集説明会
11月24日(火)
午前の部 10:00~11:30
午後の部 13:30~15:00

初めの方興味のある方大歓迎!参加費無料!

【本 場】横須賀市立中央図書館
【出 席】無料参加、申込先着順(定員に達し次第締め切り)
【定 員】15名(定員超過の場合は11月18日までに申込み下さい)
【開 場】10:00
【開 場】13:30

お母さん大学「クラウドソーシング・プロジェクト」の活動
お母さん大学 横須賀支部 代表 田中清美
事務局 クラウドソーシング推進センター
横須賀クラウドワークス 執行役員 田中清美
お母さん大学「クラウドソーシング・プロジェクト」のお母さん
事務局 横須賀市立中央図書館 企画課 企画課 企画課
【お申し込み】お申し込みはメールのみでお願いいたします。
kiyomi75@yahoosai.jp

お母さん自分で横須賀の魅力を再発見
「お母さんミーティング」

お母さん大学横須賀支部は横須賀商工会議所と連携して「お母さん大学」の発行委員に参加しています。お母さん大学ではお母さん同士でスキルを活かして新しい働き方を仕事にするなら、子育てのお母さん同士なら、新しい働き方があります。子育てのお母さん同士なら、新しい働き方があります。子育てのお母さん同士なら、新しい働き方があります。

一緒に活動できるお母さん大募集!!
「お母さん大学」は、お母さん同士でスキルを活かして新しい働き方を仕事にするなら、子育てのお母さん同士なら、新しい働き方があります。子育てのお母さん同士なら、新しい働き方があります。子育てのお母さん同士なら、新しい働き方があります。

総務省「ふるさとテレワーク推進のための地域実証事業」

クラウドサービスを活用した
『テレワーカー』募集説明会開催

テレワーク、とは...

情報通信機器(パソコンとインターネット)などを利用して、企業から任された仕事(会計業務や給与計算などを、時間や就業場所にとらわれず行う勤務形態のことを言います。育児や介護など、個々の環境、事情に応じて柔軟に働くことができます。このテレワーク勤務形態で仕事をすることを「テレワーカー」と呼んでいます。

■日 時 / 2015年10月19日(月)13:30~15:30
■会 場 / 松本商工会議所 606会議室(松本市中央1-23-1)
■費 格 / ①簿記2級または簿記3級をお持ちのおよそ20~40歳の方
※ 経理・総務の実務経験者歓迎
②Microsoft Access程度のスキルのある方。※SE経験者歓迎
■内 容 / ①パソコン・インターネットを活用したテレワーク業務について
②松本市に於ける今回ご提案するテレワークで行う業務(会計処理・マイナンバー確認業務・ソフトウェア開発業務)
■講 師 / 株式会社スマイルワークス 代表取締役社長 坂本恒之氏
株式会社富士通マーケティング 執行役員クラウドサービスビジネス本部長 浅香直也氏
■定 員 / 30名(定員になり次第締め切り)

参加費無料!

自宅実家で、テレワーク施設で、場所はどこでも時間も自由!!

経理や総務の業務経験を活かして、在宅で自由にお仕事!!

現在育児中...、いずれ仕事復帰したいが自宅での仕事をしたい!!

空き時間を有効に使い、過去の業務経験を自宅などで活かしたい!!

そんな皆さまのご参加お待ちしております。

※当募集説明会は就業をお約束するものではなく、テレワークという仕事を理解していただき、両方に合ったお仕事を考えていただくものです。

お申込み・問い合わせ 松本商工会議所 情報事業部 TEL:0263-32-5576
http://www.mcci.jp/teleworker

■主催 / 一般社団法人クラウドサービス推進機構(CSPA)・(株)スマイルワークス・(株)富士通マーケティング
■協賛 / 松本商工会議所・松本市・(株)ノークリサーチ

1. 現在の進捗状況・これまでの成果

実証事業2.クラウドソーシングによる新規ビジネス創出と地域人材活用事業

②業務内容

～ テレワーカーはどんな仕事をやっているか？ ～

(1)横須賀事業

テレワーカー

ライティング(書き物系) 業務中心

(株)クラウドワークス

(2)松本事業

会計業務
テレワーカー

企業会計の仕分業務

(株)スマイルワークス

ソフトウェア開発
テレワーカー

PaaSを活用したシステム開発

(株)富士通
マーケティング

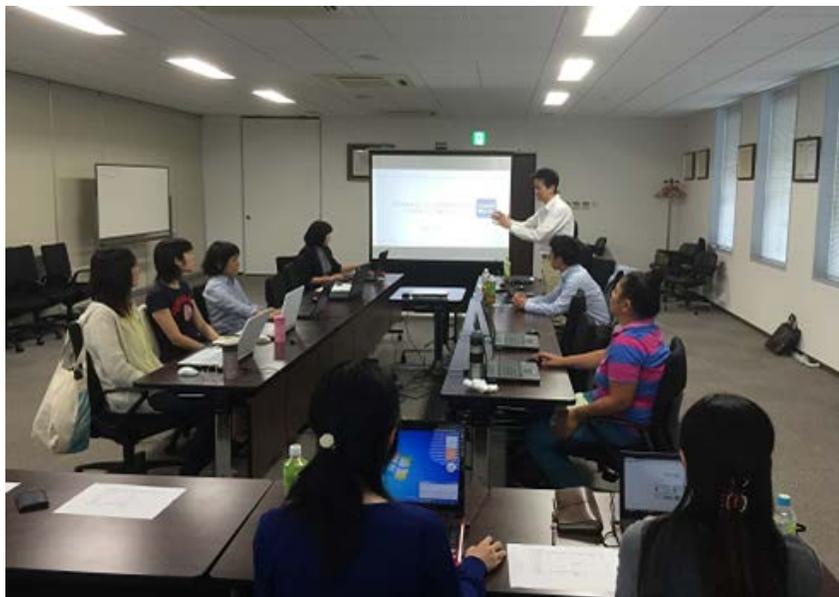
1. 現在の進捗状況・これまでの成果

実証事業2.クラウドソーシングによる新規ビジネス創出と地域人材活用事業

③在宅テレワーカーのプロフィール/スキル

(1)横須賀事業

- ・地域の主婦コミュニティのお母さんが参加した。
- ・テレワーク実行のための教育、ITスキルアップ教育を実施し、クラウドワークスが用意した横須賀プロジェクト専用サイトから、テレワーカー自身で検索し、ライティング業務などを中心に仕事を行っている。



～ どんなワーカーが集まったのか？ ～

(2)松本事業

- ・募集説明会には会計希望25名、SE希望9名（合計34名）が参加。
- ・会計業務希望者25名のうち8割が簿記2級以上、SE希望者9名は元SEがほとんどで、ソースコードを読めるレベルの参加者もいた。



1. 現在の進捗状況・これまでの成果

実証事業2.クラウドソーシングによる新規ビジネス創出と地域人材活用事業

④在宅テレワーカー数

～ ワーカーは何人発掘できたのか？ ～

(1)横須賀事業

- ・当初目標 20名
⇒ 35名以上へ増員
- ・現在登録ワーカーは47名で、最終的にはさらに増員予定。
- ・目標以上のワーカーを獲得し、同時に
お母さんたちのコミュニティ作りに成功！

(2)松本事業

- ・当初目標 7名
(会計4名、SE3名)
⇒15名以上へ増員
- ・現在は9名が実働。募集説明会参加者へのフォローで15名以上のワーカー獲得を目指す。

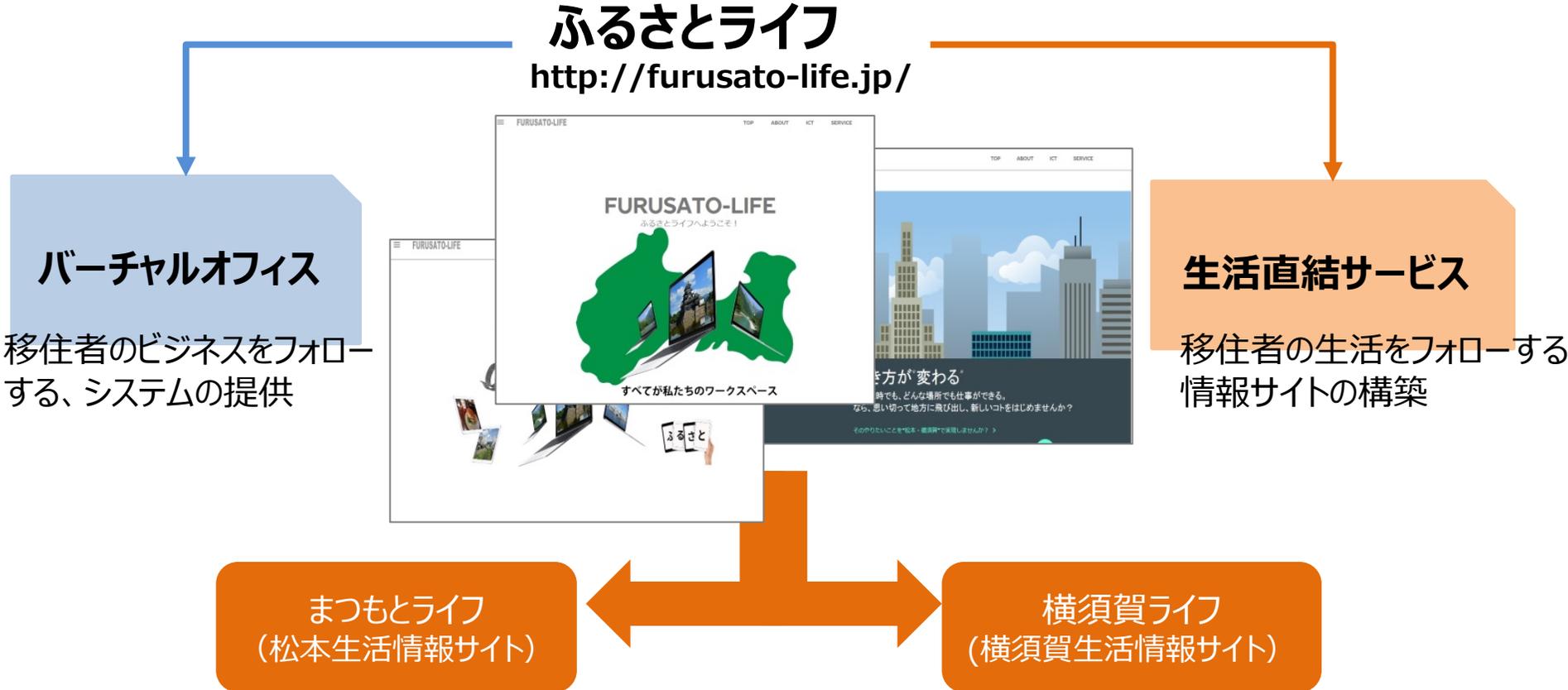
1. 現在の進捗状況・これまでの成果

実証事業3.テレワーク継続推進のための事業

3-1.誘致促進用専用基盤構築（ふるさとライフ構築）

～ テレワーク事業を推進するために必要な
施策やマーケティング活動 ～

テレワーク事業をサポートするために、地域の生活関連情報を紹介した事業専用のWebサイトを構築した。特に松本事業に関しては企業や個人の移住・移転に加え「実証事業1.サテライトオフィス企業誘致事業」の生活直結サービス機能も含んでいる。2015年12月上旬に公開されている。



1. 現在の進捗状況・これまでの成果

実証事業3.テレワーク継続推進のための事業

3-1.誘致促進用専用基盤構築（ふるさとライフ構築）

～ 事業専用のWebサイト「ふるさとライフ」とは何か？～

地域の生活関連情報を集約・統合した、誘致・移住促進のためのマッチング専用のWebサイトを構築した



まつもとライフ
（松本生活情報サイト）
<http://furusato-life.jp/matsumoto/>

横須賀ライフ
（横須賀生活情報サイト）
<http://furusato-life.jp/yokosuka/>



横須賀生活情報サイト
横須賀の生活情報リンク集

1. 現在の進捗状況・これまでの成果

実証事業3.テレワーク継続推進のための事業

3-2.テレワーク継続推進のためのマーケティング事業

- ①「首都圏の企業」と「首都圏在住者」に、「テレワーク移転・移住に関する意識の把握」と併せて「ふるさとライフ（今回の事業用のWebサイト）の評価」を実施した。（ともにN=500）を12月中旬に実施。集計・分析も1月中に実施済。実際の実証事業を補完するために、定量的な調査結果を盛り込んで、報告書に反映した。
- ② 大学教授、経済団体キーマンなどによる有識者で構成する評議会活動で、実証事業についての討議、提言、インタビューを行い、実証事業の経過、結果などの検討、課題についての提言を受け、報告書に反映した。

3-3.横須賀・松本におけるテレワーク取組PR事業

- ①松本市、横須賀市、両地域ともに実証事業関連のセミナーなどのイベント情報を地域メディア中心に数多く告知、PR。
- ②個別の有力Web媒体、日経BP社などでのWeb媒体でも大きく掲載。
- ③当横須賀・松本商工会議所地域連携モデルだけでなく、総務省事業全体のPRを行った。現在もSNSと連携して継続している。

2. 直面した課題と解決策

実証事業2.クラウドソーシングによる新規ビジネス創出と地域人材活用事業

(1)横須賀事業

① 集まった在宅テレワーカーへの仕事の案内数が多いが、現状での受託量は少ない

⇒ 毎日、育児、家事に主婦は忙しい。その中でクラウドソーシングの仕事をするには、仕事に対する“慣れ”、“習慣化”が必要。また管理側は中～長期視点での育成が必要。

② クラウドソーシング初心者にとってライティング(書きもの系) 業務の単価の低さ

⇒ 初心者でも出来る業務分野であり、継続して行くことでスキルがアップ、スピードアップが可能。但し継続させるための管理側の工夫が必要。

解決策

検討中(模索中)だが、商工会議所内に設置したコワーキングスペースで、テレワーカーが集まったの継続的な業務実施(=“慣れ”、“習慣化”)に期待。但し“託児”がカギ

(2)松本事業

一般公募でテレワーカーの目標数を達成し、更に増員したが、それに見合った発注業務の一定量を確保することが難しく、実証期間終了後の継続について、が課題。

⇒ 松本市で業務を獲得し、松本市のテレワーカーに業務を発注する、自律的な経済サイクルを構築すべき。

⇒ 今後、テレワーカーに安定して業務を発注するためには業務を獲得しなければ続かない。

解決策

- ・地元での発注企業募集のセミナーを行う(実施済)
- ・テレワークへ発注先候補企業獲得のための広告を実施(予定)

3. その他(事業3.継続推進のためのPR・プロモーション実績)

メディア掲載状況一覧1.Web/テレビ(横須賀・松本商工会議所地域連携モデル)

実証地域	日付	媒体名	報道タイトル
横須賀商工会議所	2015年9月24日	WorkMaster	クラウドワークス、総務省の公募事業に採択
横須賀商工会議所	2015年9月25日	マイナビニュース	クラウドワークス、横須賀商工会議所とテレワーク推進のための地域実証
松本商工会議所	2015年9月30日	マイナビニュース	総務省、ふるさとテレワーク推進会議開催-15団体がICT活用で地方創生
松本商工会議所	2015年10月15日	松本平タウン情報	松本商議所「テレワーク」推進へ
松本商工会議所	2015年11月19日	ASCII.jp	スマイルワークス「ClearWorks」が描く中小企業のクラウドの世界(松本でテレワーク事業)
横須賀商工会議所	2015年9月24日	WorkMaster	クラウドワークス、総務省の公募事業に採択
横須賀商工会議所	2015年9月25日	マイナビニュース	クラウドワークス、横須賀商工会議所とテレワーク推進のための地域実証
横須賀商工会議所	2015年10月23日	神奈川新聞	在宅勤務のススメ 女性対象に講座「クラウドソーシング」活用支援 横須賀商工会議所
松本商工会議所	2015年10月30日	テレビ松本	アルプスネットワークニュース(テレワークを学ぶセミナー)
横須賀・松本商工会議所	2015年12月9日	日経BP 小さな組織の未来学	地方に仕事を！ 地方に企業を！ 地方に人を！
松本商工会議所	2015年12月10日	日経BP 小さな組織の未来学	地方都市の未来を創る手立ては何か——松本市の例から
松本商工会議所	2015年12月11日	日経BP 小さな組織の未来学	テレワークは地方の人口を支えてゆくか——松本市の例から
横須賀商工会議所	2015年12月28日	日経BP 小さな組織の未来学	首都近郊の都市で起こっている人口問題——横須賀市の例から
横須賀商工会議所	2016年1月4日	日経BP 小さな組織の未来学	就業機会とコミュニティーを並行して育む——横須賀市の例から

3. その他(事業3.継続推進のためのPR・プロモーション実績)

メディア掲載状況一覧2.紙媒体 (横須賀・松本商工会議所地域連携モデル)

実証地域	日付	媒体名	報道タイトル
松本商工会議所	2015年9月19日	信濃毎日新聞	「テレワーク」総務省モデル事業、松本商議所などの提案採択
松本商工会議所	2015年9月29日	市民タイムス	経験や技能、テレワークで 松本商議所がモデル事業
松本商工会議所	2015年10月20日	市民タイムス	在宅PC業務に高い関心 松本のセミナーに34人
松本商工会議所	2015年10月20日	信濃毎日新聞	ネットを使った在宅勤務は？松本 都内企業が説明会
横須賀商工会議所	2015年10月23日	神奈川新聞	在宅勤務のススメ 女性対象に講座「クラウドソーシング」活用支援 横須賀商工会議所
横須賀商工会議所	2015年10月30日	タウンニュース	ネット活用で多様な働き方
横須賀商工会議所	2015年11月1日	お母さん業界新聞横須賀版	自宅で仕事をするお母さんは「ステキ」です
横須賀・松本商工会議所地域連携モデル	2015年11月2日	日本情報産業新聞	この人を尋ねて(地域実証事業に連携モデル応募・採択)

3. その他掲載実績(タウンニュース、市民タイムス)

横須賀テレワーカー講習会取材 10/30タウンニュース

サテライトオフィス取材 9/29市民タイムス



タウンニュース

ネット活用で多様な働き方

商議所推奨の「テレワーク」

女性の隔間時間に着目



商議所推奨の「テレワーク」

女性の隔間時間に着目

「テレワーク」は、働き方改革の重要な要素として注目されています。特に、女性の働き手にとって、通勤や育児との両立が容易になるというメリットが、多くの企業や自治体から支持されています。本記事では、実際にテレワークを導入している企業の事例や、効果的な導入方法について詳しく紹介します。

また、女性の働き手にとって、通勤や育児との両立が容易になるというメリットが、多くの企業や自治体から支持されています。本記事では、実際にテレワークを導入している企業の事例や、効果的な導入方法について詳しく紹介します。

市民タイムス 2015年9月29日 (1面右半面)



経験や技能
テレワークで

米月受注者募集の説明会

商議所がモデル事業

「テレワーク」は、働き方改革の重要な要素として注目されています。特に、女性の働き手にとって、通勤や育児との両立が容易になるというメリットが、多くの企業や自治体から支持されています。本記事では、実際にテレワークを導入している企業の事例や、効果的な導入方法について詳しく紹介します。

また、女性の働き手にとって、通勤や育児との両立が容易になるというメリットが、多くの企業や自治体から支持されています。本記事では、実際にテレワークを導入している企業の事例や、効果的な導入方法について詳しく紹介します。

3. その他掲載実績(市民タイムス、松本平タウン情報)

**松本商工会議所でのテレワーカー募集セミナー取材
市民タイムス10/20**

**松本・サテライトオフィス取材記事
松本平タウン情報10/15**

市民タイムス 2015年10月20日 3面(総合・経済)

松本平タウン情報 2015年10月15日 (1面右半面)



在宅PC業務に高い関心 松本のセミナーに34人

市民タイムス 2015年10月20日 3面(総合・経済)

テレワークについて説明を聞く参加者。30～40代の女性が目立った。

松本商工会議所が主催する「在宅PC業務」に関するセミナーが、19日(土)午後2時から、同会館で開かれた。参加者は34人、うち28人が女性で、30～40代の女性が目立った。セミナーでは、在宅PC業務のメリット・デメリット、必要なスキル、応募方法などが説明された。また、質疑応答の時間も設けられた。参加者は、在宅で働くことのメリットや、スキルアップの必要性について関心を示していた。また、応募方法や面接の注意点についても質問があった。セミナーは、参加者の関心の高さを窺わせる結果となった。



「テレワーク」推進へ 育児や介護離職者対象に19日説明会

松本商工会議所
市民タイムス 2015年10月15日 (1面右半面)

松本市の中心市街地、イトモビルを会場に、19日(土)午後2時から、松本商工会議所が主催する「在宅PC業務」に関する説明会が開かれた。参加者は、育児や介護離職者を中心に、約30名が参加した。説明会では、在宅PC業務のメリット・デメリット、必要なスキル、応募方法などが説明された。また、質疑応答の時間も設けられた。参加者は、在宅で働くことのメリットや、スキルアップの必要性について関心を示していた。また、応募方法や面接の注意点についても質問があった。説明会は、参加者の関心の高さを窺わせる結果となった。

3. その他掲載実績(信濃毎日新聞、情報産業新聞)

**松本でのテレワーカー募集セミナー取材
10/20信濃毎日新聞**

**横須賀・松本商工会議所連携モデルの取材
11/9 情報産業新聞(代表団体)**

信濃毎日新聞 2015年10月20日 29面(信州ワイド)



**トータルサービスインテグレータとして
お客様にご要望を超えたサービスを提供します**

独立系のITサービスインテグレータ企業です。
 「サービスのご提供」を重視し、大手SIer様の優良ビジネスパートナーとして
 これまで多くの大規模システム構築に携わって参りました。
 更に、その経験で得た技術力・業務ノウハウを強みとして
 わの事業(クラウドサービス/ERP/SIシステム運用)を軸に
 近年一般法人様との取引も積極的に行っています。

USEを、お客様のコアエンジンとして存分に活用ください。
 本年もお客様のご要望を超えた「真のサービス」を提供して参ります。

株式会社ユー・エス・イー
 代表取締役 西島 文平

〒300-0033 東京都中央区新富1-4-22-10
 TEL:03-6262-8881 FAX:03-6262-8882
 営業/10時～18時 受付/9時～18時 総務/9時～18時

クラウドサービス 専門
 ERP事業 専門
 SI事業 専門
 システム運用事業 専門

株式会社ユー・エス・イー
 〒300-0033 東京都中央区新富1-4-22-10
 TEL:03-6262-8881 FAX:03-6262-8882
 営業/10時～18時 受付/9時～18時 総務/9時～18時

3. その他掲載実績(日経BP、横須賀・松本商工会議所連携モデル連載1)

横須賀・松本商工会議所連携モデルの紹介 日経BP 「小さな組織の未来学 創生する未来」での連載時期 全5回
2015.12.09-2016.1.4 <http://www.nikkeibp.co.jp/atclcsm/15/427956/120800003/>

小さな組織の未来学  MENU

今から2020年までに中小企業の底力を見せつけて日本を次のステージに!

メールマガジン会員登録   

ホンネのITマネジメント
伊嶋 謙二 

 モノと道具を再構築する



iPhoneに感じる、トップシェアを取るための単純なこと

自分の好きなことを仕事にして、しかも成功を取めることは理想的な人生だと思う。ふと自分も起業して好きな

 地方に仕事を！ 地方に企業を！ 地方に人を！



創生する未来
～地域支援プロジェクト～
2015.12.09

 「尾道らしさ」と「現場主義」——脱・補助金のNPO経営



3. その他掲載実績(日経BP、横須賀・松本商工会議所連携モデル連載2)

松本商工会議所事業のインタビュー連載記事

★ 地方都市の未来を創る手立ては何か——松本市の例から



創生する未来
～地域支援プロジェクト～
2015.12.10

★ 地方に仕事を！ 地方に企業を！ 地方に人を！



★ テレワークは地方の人口を支えてゆくか——松本市の例から



創生する未来
～地域支援プロジェクト～
2015.12.11

★ 地方都市の未来を創る手立ては何か——松本市の例から



3. その他掲載実績(日経BP、横須賀・松本商工会議所連携モデル連載3)

横須賀商工会議所事業のインタビュー連載記事

創生する未来
～地域支援プロジェクト～
2016.01.04

★ 首都近郊の都市で起こっている人口問題——横須賀市の例から



創生する未来
～地域支援プロジェクト～
2015.12.28

✕ 閉じる

毎週木曜発信! あなたの
仕事に役立つ情報を確実にお届け

メルマガ会員登録 (無料)

★ 就業機会とコミュニティを並行して育む——横須賀市の例から

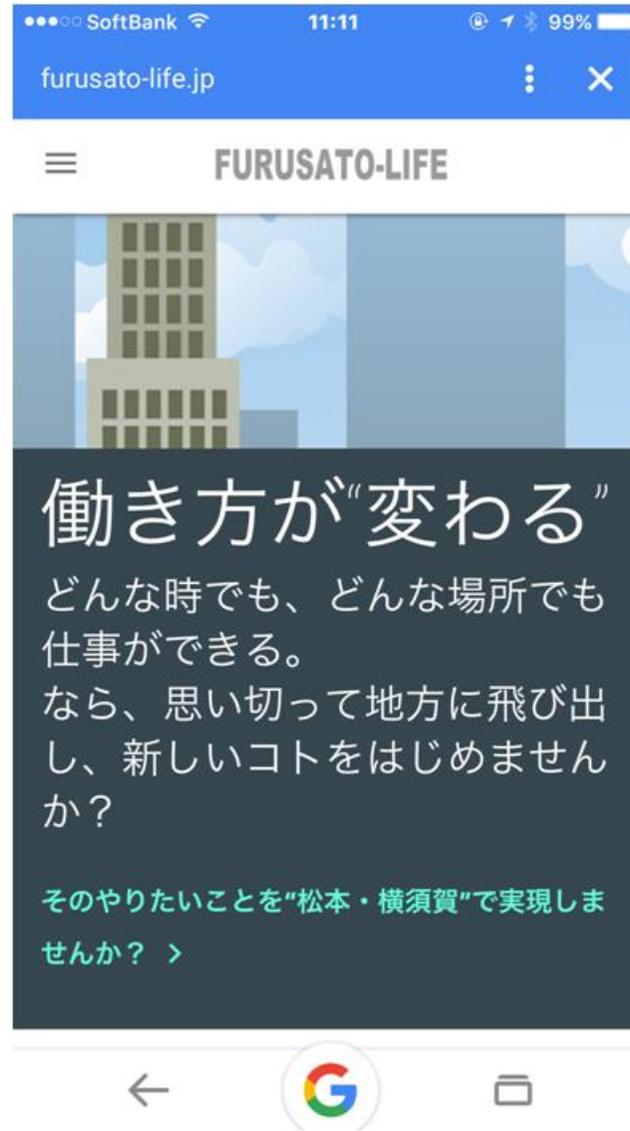


創生する未来
～地域支援プロジェクト～
2016.01.04

★ 首都近郊の都市で起こっている人口問題——横須賀市の例から



横須賀・松本商工会議所地域連携モデルのふるさとテレワーク事業(専用Web)

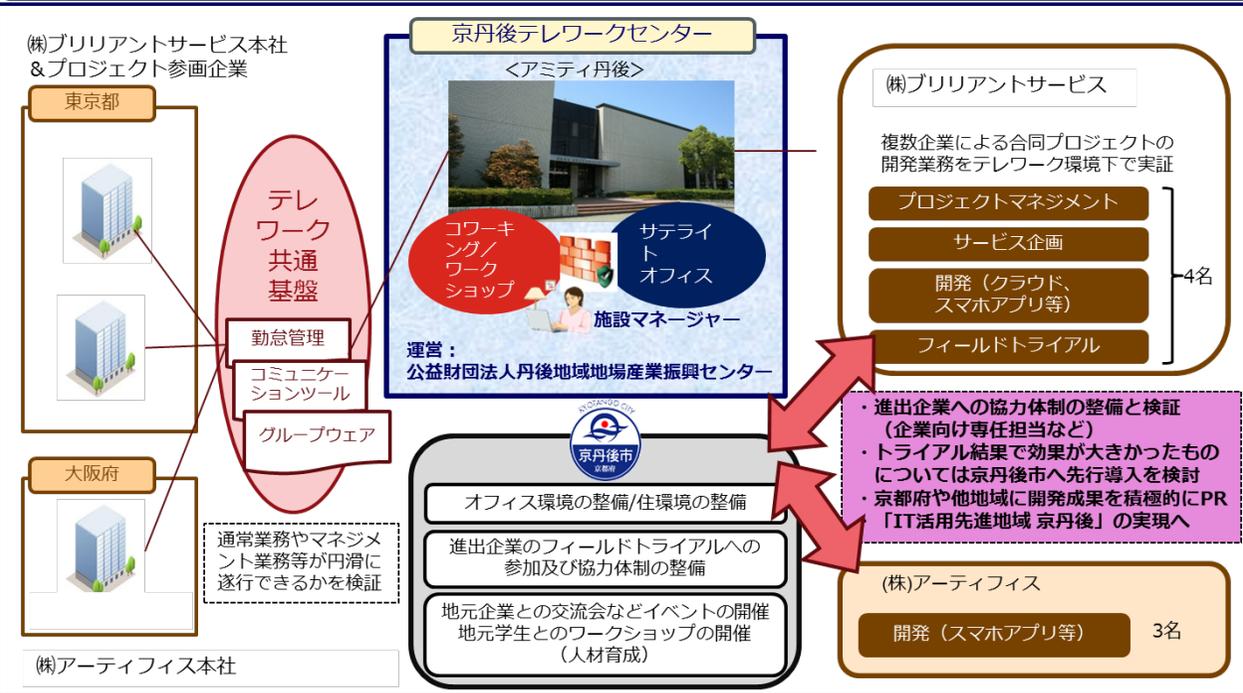


地域向けの新商品・新サービスの開発環境とトライアルフィールドとしての強力な地域サポートを戦略とする地方小都市の企業誘致によるふるさと創生事業

代表団体	公益財団法人丹後地域地場産業振興センター		
実施地域	京都府京丹後市	地方移動人数（目標）	地方移動人数:11人
地方進出企業	株式会社ブリリアントサービス、株式会社アーティフィス		
事業概要	都市部のICT系企業のニーズでもある《働きやすく生産性の高い開発環境》と《充実したフィールドトライアル環境》をあわせて提供できる価値を京丹後市の強みとして企業・仕事・ワーカ―の誘致を通じた地域づくりのプロセス及びサイクルを確立する。		
実証期間終了後の予定	実証期間終了後も継続予定		

京丹後型ワークスタイルの創造 ～プロジェクトの誘致・テレワーク拠点整備による地域経済活性化～

- 都市圏からICT企業が京丹後市に進出し、開発業務を実施。成果物を京丹後市の環境でフィールドトライアルを実施
- 京丹後市がテレワークセンターに進出した企業の研究開発成果に対するフィールドトライアルの協力や市が自ら研究開発成果を活用する「事業化支援プログラム」による企業の満足度を検証
- 自走化を想定した研究開発センター拠点としての運営面（体制、方法、コスト等）の検証



学術機関
明治大学
 サービス創新研究所
 (コンソーシアムメンバー)

全体の提案/企画・調査研究を担当

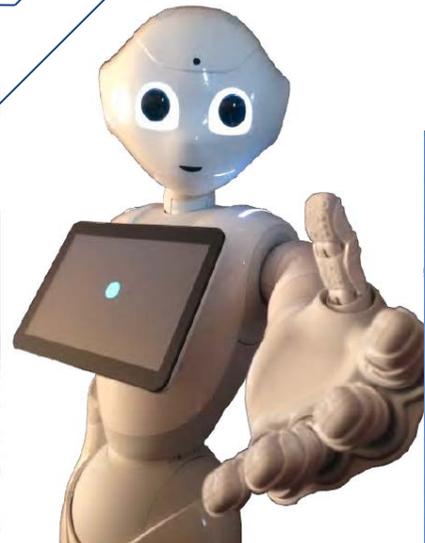
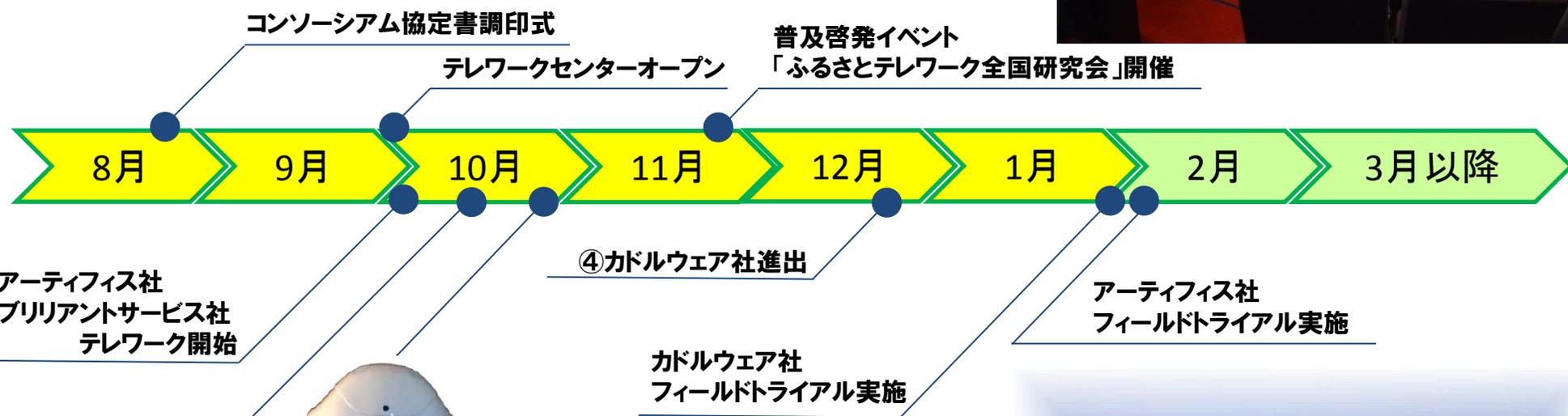
進出予定企業：IT企業
 4名派遣予定

地域の付加価値創りでプロジェクトと連携及びサテライトオフィスを活用したテレワーキングの実証

1. 現在の進捗状況・これまでの成果

(1) 実証事業の展開

10月にテレワークセンターがオープンして以来、コンソーシアム内外の4社が、センターを拠点にシステム開発・事業開発を進め、京丹後でのフィールドトライアルを行っている。



1. 現在の進捗状況・これまでの成果

(2) 構築したテレワーク施設の概要

京丹後ふるさとテレワークセンター
(公益財団法人丹後地域地場産業
振興センター『アミティ丹後』内)

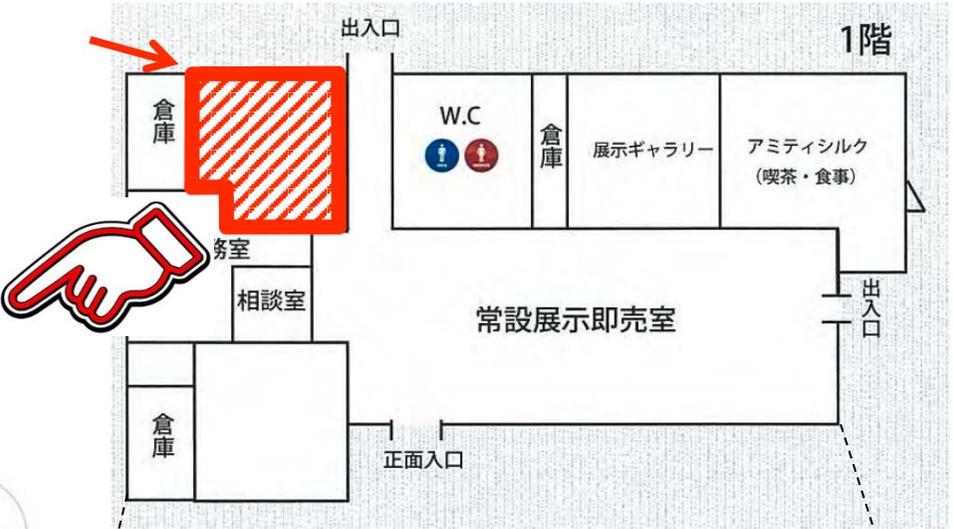
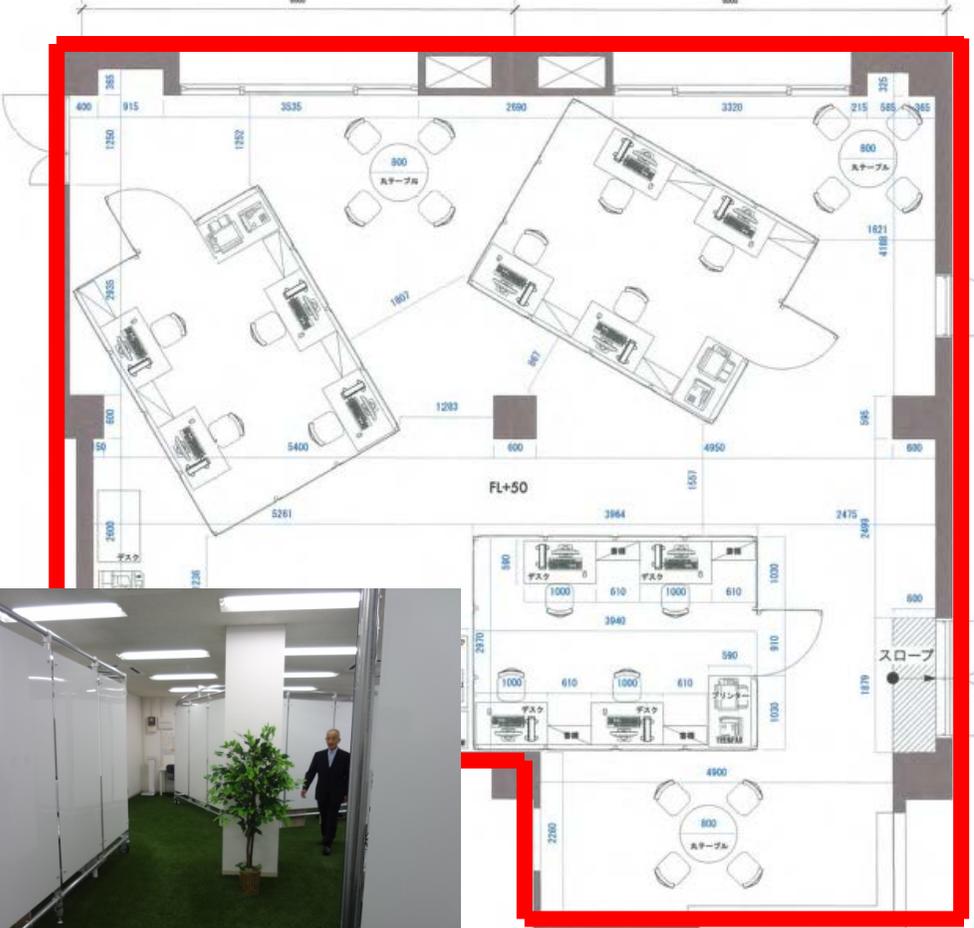


1. 現在の進捗状況・これまでの成果

(2) 構築したテレワーク施設の概要

京丹後ふるさとテレワークセンター

京丹後市の郊外にある公益財団法人丹後地域地場産業振興センター(アミティ丹後)1Fの空室を「サテライトオフィス/テレワークセンター」として活用



1. 現在の進捗状況・これまでの成果

(2) 構築したテレワーク施設の概要

京丹後ふるさとテレワークセンター

(約166㎡のオフィススペース)



(コワーキングスペース)



(各社毎に独立したテント型スペース) 各約12㎡



(体重計・血圧計)



【その他の特長】

- 床一面に人工芝を敷設
- 各社ブースの壁面はホワイトボード素材(⇒MTG向け)
- 固定IP対応の高速Wi-Fi提供
- 入退室をクラウドで監視

1. 現在の進捗状況・これまでの成果

(3) ふるさとテレワークの実施

①人の移動（※2015年12月末時点）

所属	テレワーカー	移住・滞在形態
アーティフィス社	3人 (事業開発・システム開発)	東京・大阪から出張の形態
ブリリアントサービス社	4人 (事業開発・システム開発)	東京・大阪から出張の形態
公開経営指導協会	3人 (事業開発)	東京から出張の形態
カドルウェア社	1人 (事業開発・システム開発)	静岡から出張の形態



今後、“京丹後への定住”の実現に向けて働きかけ

※移住者に対しては、京丹後市が家賃補助などのサポートメニューを用意している。

1. 現在の進捗状況・これまでの成果

(3) ふるさとテレワークの実施

②京丹後型ふるさとテレワークの目指すもの

新規事業開発やシステム開発などの
業務をテレワークセンターで実施

開発したビジネスモデルやシステム・サービスの
フィールドトライアルを京丹後で実施



※京丹後市がフィールドトライアル
実施に対するサポートメニューを
用意している。



1. 現在の進捗状況・これまでの成果

(3) ふるさとテレワークの実施

③ 参画各社の進捗・達成状況



【アーティフィス社】

- 都市と地方を結ぶマッチングサイト構築
- 都市部外食産業向けの地方製品の流通モデルの企画開発

2月：都市と地方を結ぶマッチングサイト公開

【ブリリアントサービス社】

- ロボティクス技術活用介護事業者向けサービス開発

10月：介護施設をインターネット中継で接続し、ロボットと高齢者が健康体操

【公開経営指導協会】

- ICT活用による観光誘致とインバウンド実証

(インバウンド実証を検討中)

【カドルウェア社】

- ドローン搭載制御ソフトウェアの開発
- ドローンを活用した新規事業開発

2月：ドローン飛行トライアル

1. 現在の進捗状況・これまでの成果

(4) 地域実証事業で実証するテレワーク機能

①テレワークの有効性 (検証項目1)

■テレワーカーのワークライフバランスの向上

日記式調査によりテレワーカーの生活時間を測定



- 京丹後滞在中は、都市部での勤務時よりプライベートな時間が増加傾向
⇒労働時間の短縮、通勤時間の短縮
- ただし、出張ベースのため、往復時に移動時間が発生する問題あり

■テレワーカーの満足度

アンケート調査によりテレワーカーの意識をテレワーク前後で比較検討

1. 現在の進捗状況・これまでの成果

(4) 地域実証事業で実証するテレワーク機能

② 進出企業の生産性の向上 (検証項目2)

■テレワーカーによる評価の例

	テレワーカーによる高評価の例	テレワーカーによる低評価の例
オフィス環境	<ul style="list-style-type: none">✓ 集中して仕事をする事ができる。✓ 一日中、コーディング作業が可能。	<ul style="list-style-type: none">✓ テレワークセンター内の各社ブースの情報セキュリティ対応がなされておらず、重要な業務には向かない。
パソコン環境・ソフトウェア		<ul style="list-style-type: none">✓ テレワークセンターに設置されているPCのスペックが低く、システム開発には向かない。✓ PCのスペックが低く、プログラミングとWEB会議を同時に行えない。
ネットワーク環境		<ul style="list-style-type: none">✓ Wi-Fiが繋ぎにくく、業務がしづらい。
業務進行	<ul style="list-style-type: none">✓ WEB会議システムを活用して、東京と大阪、現場と顧客、の仲立ちをしながら業務を進めることが可能。	

1. 現在の進捗状況・これまでの成果

(4) 地域実証事業で実証するテレワーク機能

② 進出企業の生産性の向上 (検証項目2)

■ 企業による評価の例

	企業による高評価の例	企業による低評価の例
オフィス環境	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 隣室が管理室であり、コンシェルジュ・ビジネスサポート機能がある。 ✓ 小さな打合せをカバーする空間がある。 ✓ 複数社がオフィスを共用しているため、各社が連携した新規ビジネス企画の機会を持てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ オフィスをコワーキングスペース化して、地元の人たち(企業やノマドワーカー)と共同作業できる環境でないと効率が悪い。
パソコン環境・ソフトウェア		
ネットワーク環境		
業務進行	<ul style="list-style-type: none"> ✓ チームで派遣すれば、遠隔地でも仕事は回せる。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「マネージャー」「プログラマー」「デザイナー」「テスター(品質管理)」はチームで動かないといけない。よほど人間的にしっかりした人でないと、1人4役のテレワーカーは務まらない。

1. 現在の進捗状況・これまでの成果

(4) 地域実証事業で実証するテレワーク機能

③ サテライトオフィス運営ノウハウの観点 (検証項目3)

■ 地域実証事業の評価

【評価されているポイント】

- ・ テレワークセンターに対するサポート体制
- ・ 地元自治体・団体との連携の強さ
- ・ 進出企業間のコミュニケーション

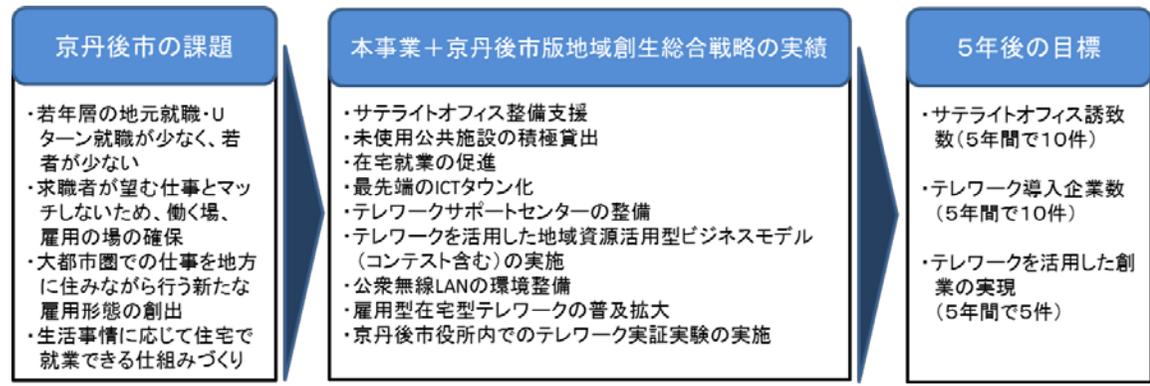
【改善が必要なポイント】

- ・ 地元の人たち(企業やノマドワーカー)と共同作業できるコワーキングスペース的な機能
- ・ 地元企業等との連携の弱さ
- ・ 不十分なICT環境

(例) Wi-Fi環境の再構築を予定(2.4GHz帯⇒5GHz帯へ)



5年後を見据え、「自走化」の検討



1. 現在の進捗状況・これまでの成果

(4) 地域実証事業で実証するテレワーク機能

③ サテライトオフィス運営ノウハウの観点 (検証項目3)

■ テレワークセンター／サテライトオフィスのビジネスモデルの再検討

位置づけ(ビジネスモデル)の例	イメージ
① 現状維持 (都市部企業向け場所貸し)	<ul style="list-style-type: none">➤ 都市部の企業が派遣する社員の業務スペースの提供➤ 出張者向けスポットオフィスから移住者向けサテライトオフィスまで
② 地元向けレンタルオフィス + インキュベーション機能	<ul style="list-style-type: none">➤ 地元企業や起業家の業務スペースの提供➤ スタートアップ支援や専門家による事業サポートなどのインキュベーション機能を付加
③ 地元向けレンタルオフィス + エージェント機能	<ul style="list-style-type: none">➤ 地元企業や起業家の業務スペースの提供➤ テレワークセンターが都市部や地元企業の発注業務を請け、振り分けるエージェント機能を付加
④ コワーキングスペース	<ul style="list-style-type: none">➤ 地元企業・起業家のみならず、多くの住民が集う業務スペース
⑤ コワーキングスペース + 交流の場	<ul style="list-style-type: none">➤ 地元企業・起業家のみならず、多くの住民が集う業務スペース➤ 都市部の企業が派遣する社員も業務を行うスペース➤ 企業・住民等のコミュニケーション・コラボレーションの場

 実証終了後もテレワークセンターは継続予定。中期的な方向性を検討中。

1. 現在の進捗状況・これまでの成果

(5) 地域実証事業で実証する生活直結サービス

○地方に移住した人の健康管理

テレワーカーの健康状態・活動などを測定

テレワークセンター内に体組成計・血圧計等を設置



テレワーカーが活動量計を携帯



- 京丹後ではテレワークセンターでデータ記録
- 東京等ではコンビニでデータ送信



テレワーカーの健康状態・活動などをWEB管理
(⇒市役所の保健師による健康指導)



テレワーカーの
運動不足・肥満傾向

ウォーキングの励行
医療機関受診
食生活改善 など

2. 直面した課題と解決策

課題	概要	解決策
進出企業が協業できる地元IT企業やフリーランスが見あたらない	少人数のテレワーカーで事業開発・システム開発を進めるためには、地域の人的リソースとの協業が不可欠となるが、IT系の企業や(主婦などを含めた)フリーランスが質的・量的に不足しており、プロジェクトの遂行や、京丹後地域での定着の阻害要因となっている。	✓ 検討中 京丹後市の人材バンクを活用するとともに、テレワークセンターを地域に開放し、地域との交流が活発化する場にすることによって、潜在的な人的リソースの発掘・育成につなげることを検討
進出企業のコスト負担が大きい	実証事業を通じて、テレワークが機能することは分かったものの、サテライトオフィス維持コストを勘案すると、進出企業が社員を移住させるまでのインセンティブが働かない。	✓ 実践中 「都会の企業が都会の業務を京丹後で行う」という『誘致型』事業のみならず、「都会の企業が京丹後の業務を京丹後で行う」という『内発型』事業を(既存事業ではなく)都会の企業のノウハウにより新たに創出し、企業にとって京丹後でのテレワークの必然性を高める取り組みを開始
適切な居住施設がない	近辺にテレワーカーの居住に適したマンション・アパートが少なく、ないため、移住の形態はとりにくい。	✓ 検討中 京丹後市が空き家物件の紹介や居住支援策を講じているが、適切な物件が不足している

(1) 地元メディアでの露出

②開所式(10月)・・・多数の新聞で紹介

2015.10.20 産経新聞 (22面)

ICT(情報通信技術)を活用して都市部と本社を離れ企業の本拠地が地方へ移住する「サテライトオフィス」の活用が、都市部の活性化に貢献する。産経新聞は、京丹後市網野町の「サテライトオフィス」の活用が、都市部の活性化に貢献する。産経新聞は、京丹後市網野町の「サテライトオフィス」の活用が、都市部の活性化に貢献する。

2015.10.2 毎日新聞 (20面)

IT社員11人「移住」 京丹後・実証事業へ



「移住」して仕事に取組むIT社員が、サテライトオフィスを活用して都市部と本社を離れ企業の本拠地が地方へ移住する「サテライトオフィス」の活用が、都市部の活性化に貢献する。

2015.10.2 京都新聞 (20面)

新事業創出の実現啓う 情報企業サテライトオフィス開設



京丹後市網野町の「サテライトオフィス」に11名のIT社員が移住し、実証事業を開始した。記事には、移住した社員たちの声や、市の取り組みについても触れている。

10.10 朝日新聞 (29面)

IT環境整え誕生



京丹後市網野町の「サテライトオフィス」に11名のIT社員が移住し、実証事業を開始した。記事には、移住した社員たちの声や、市の取り組みについても触れている。

テレワークの有効性検証

京丹後で実証事業スタート



京丹後市網野町の「サテライトオフィス」に11名のIT社員が移住し、実証事業を開始した。記事には、移住した社員たちの声や、市の取り組みについても触れている。

京丹後で都市の仕事 ふるさとテレワーク実証実験



テレワークのためのオフィスとして整備された丹後地域産業振興センターの一室。京丹後市網野町

※CATV(全関西ケーブルテレビジョン)でも数回放送(10月31日~11月6日)

3. その他

(2) 普及啓発イベント「京丹後市ふるさとテレワーク全国研究会」の開催

全国から第一線の研究者11名が京丹後に集結し、テレワークに関して研究発表や意見交換を実施
(平成27年11月)



➡ 地元企業・住民等
へのアピール

※CATV (全関西ケーブルテレビジョン) でも多数放送 (1月1日～3月18日)

3. その他

(3) 日本テレワーク学会セミナーでの講演

福山宏^(*1) 『ふるさとテレワークのチャレンジと課題～大船渡・京丹後からの報告』
(平成27年11月/テレワーク月間協賛セミナー「働き方改革で実現するトランスボーダー社会」
(第17回日本テレワーク学会アカデミックサロン))



*1 明治大学

➡ テレワーク研究者・
実践企業等へのアピール

奈良県東吉野村「ふるさとテレワーク」推進事業

資料4-1-4

代表団体	東吉野村		
実施地域	奈良県東吉野村	地方移動人数/地元雇 用人数 (目標)	地方移動人数: 20人
地方進出企業	沖電気工業(株)、(株)シータス&ゼネラルプレス、(株)エム・イー・ディー、(株)柘出版社		
事業概要	<p>人口減少が急速に進む奈良県東吉野村において、「仕事や地域のコミュニティの場」として改装された自然に囲まれた古民家を活用し、「ふるさとテレワーク」の拠点として、「企業と地域の共創」モデルを実証する。「都市部の仕事が可能なテレワーク環境」の本格実証に加え、長期派遣や移住が可能になった過疎地域において、「企業」と「地域」が共に活動してこそ創出できる効果(地場産品の開発/発信・社内グローバル人材の育成・遠隔採用の可能性等)も検証する。</p>		
実証期間終了後の予定	実証期間終了後も継続予定		



東吉野村

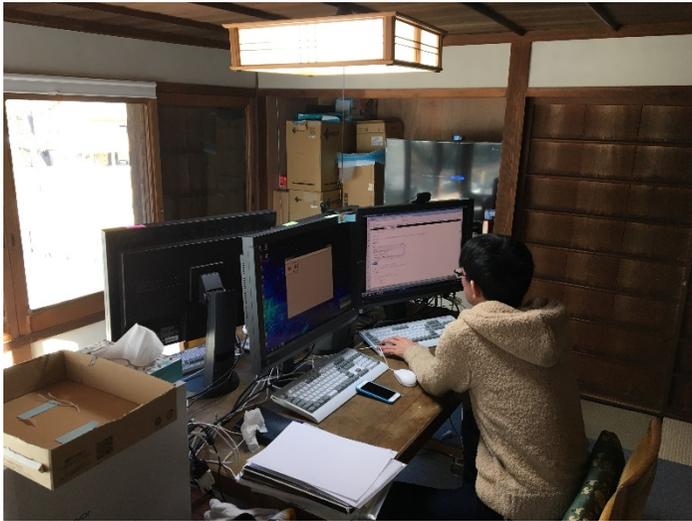
オフィスキャンプ東吉野
2015. 3/23 開業

情報発信 遠隔雇用
地域教育 地場産品
グローバル人材

都市部企業と過疎地域が共に活動することで、「地方創生」を実現するモデルを実証

1. 現在の進捗状況・これまでの成果

①大型のディスプレイと、汎用Web会議システム設置し、いつもの仕事ができる環境を実現する



実施期間: 12月～

移動人数: 12名

移管業務: 企画業務、WEBデザイン等

②沖電気工業の最先端テレワークシステム「超臨場感コミュニケーションシステム」を設置し、いつもの仕事ができる環境を実現する



実施期間: 1月～

移動人数: 4名

移管業務: 企画業務等

1. 現在の進捗状況・これまでの成果

【生活直結サービス】 女性や子どもを対象とした文化教室や遠隔教育の実施

毎日が、もっと
HAPPY
になる!

ハッピー講座

シリーズ

受講希望者
受付中!

締切 **12/20** (日)

受講無料

東京や海外で活躍する素敵な講師からオンラインで学び、その場で質問もできる参加型・無料講座です。
気になる講座を選んで、ご家族、お友達とお気軽にご参加ください♪

※受講会場「オフィスキャンプ東京野村」にて、大型モニターで現地講師とリアルタイムに繋がります。
※希望人数によっては催行されない、受講できない講座もございますので、あらかじめご了承ください。



募集: 12月～
実施講座: 2回
実施予定講座: 3回

**ママも子どももハッピーになる！
よい子が育つママの子育て講座**

幼児教育者 日本キッズコーチング協会理事長 竹内 エリカ

開催日時: 1月20日(水) 11時～12時
2月17日(水) 14時～15時



コース① 男の子の育て方、女の子の育て方

男の子には、好奇心旺盛でやる気のある子に育てる育て方、女の子には、優しさで自立心を育てる育て方。
男の子には男の子に合った育て方、女の子には女の子に合った育て方があります。0歳～6歳までそれぞれの年齢でどんなことかできていけばいいのかわかる。20年間で12,000人の子供を見てきた講師がわかりやすくお伝えします。1/17のご参加もお待ちしております！

コース② 困った子がいい子になる魔法の言葉

言葉がすぐ効くことを求めている親が多いです。簡単にすぐ効く魔法の言葉はないと親を悩ませます。こうした悩みを「賢い言い、困った子」にどう接し、その才能を伸ばしていくかを、経験豊富なエリカ講師がお伝えします。
その子の生まれながらの気質をわかって子育てをすれば、子育てはとてムラクになります！1/17のご参加もお待ちしております！

**いつも穏やかな自分でいるコツを
手に入れる！こころの整え方講座**

心理・キャリアカウンセラー 浜島 美樹

開催日時: 各回10時30分～12時、13時30分～15時
1月14日(木)、28日(木)
2月4日(木)、11日(木)



コース③ 人間関係ストレスを減らす3つのヒント

あなたは起きた事をどんな風に受け止める傾向がありますか？同じ出来事でも、人によってとらえ方が違い、受けるストレス量も違ってきます。
いつも穏やかな自分でいられる、人間関係ストレスを減らすための3つのヒントを、プロの心理カウンセラーからお伝えします。

コース④ アンガーマネジメント

最近注目されているアンガーマネジメント。最もストレスのたまる「怒り」の感情をコントロールする方法です。
アンガーマネジメントのポイントとすぐ取り入れられる実践法をプロの心理カウンセラーから学びます。怒りをなくしたり取り戻すのではなく、うまくつきあう方法をお伝えしていきます。

**学校では教えない英語発音の
基礎を学んでトータル英語力アップ！
フォニックス講座**

キッズ英語講師 英語教育コンサルタント 小島 由美香

開催日時: 各回10時～11時30分
1月10日(日)、24日(日)
2月7日(日)、14日(日)



**コース③ 大学生、社会人、対象講座
フォニックスでネイティブの英語の発音を身につけよう！**

アメリカの子どもたちが英語を学ぶときには、独自の学習方法があります。「フォニックス」はその一つで、「音」にフォーカスした学習法です。
英語独特の学習法、日本の英語教育の弱点、そして、ネイティブの発音ルールを実践してフォニックスのメソッドで発音練習し、英語力をトータルアップしていきます。

**コース④ 小学生、中学生、高校生、対象講座
フォニックスでネイティブの英語の発音を身につけよう！**

アメリカの子どもたちが英語を学ぶときには、独自の学習方法があります。「フォニックス」はその一つで、「音」にフォーカスした学習法です。
海外駐在家族の子どもにもネイティブの発音ルールを教えている講師から、実際にフォニックスのメソッドで発音練習しながら、英語の発音をお教えます。

**ハッピーな毎日を手に入れる！
私と家族のハッピープラン講座**

キャリア・コンサルタント ライフ＆キャリア・コーチ 遠藤 和

開催日時: 各回10時30分～12時、13時30分～15時
1月15日(金)、19日(火)、23日(土)
2月2日(火)、3日(水)、5日(金)



コース⑦ 私らしさを発見しよう！

これまでの私の人生の軌跡を振り返ってみることで、ご自分らしさを再確認、再発見します。ご自分らしさは、毎日のハッピーにつながる大切なポイント。ライフ＆キャリア・コーチと一緒に、ご自分らしさを発見していきます。

コース⑧ 私のワークライフバランスを考えよう

毎日の私自身の生活の中で大切にしていること（強み）を発見したり、現在と数年後のワークライフバランスを考慮していきます。講座を受けて、自分の今を見て、スッキリ！ハッピー！より自分らしい選択や生き方を導くようになります。

コース⑨ 私と家族の未来のライフプランづくり

これから10年のご自分と家族のライフプランを立ててみます。それぞれの時期に起こるライフイベントも書いていながら、この時期にはこんなことをしてみたいな！こんな風にしたいな！私のハッピーな未来を実現するライフプランをつくっていきましょう。

実施講座
「私と家族のハッピープラン講座」
○私らしさを発見しよう 受講者4名
○ワークライフバランスを考えよう 受講者4名

実施予定
「こころの整え方講座」
○人間関係ストレスを減らす3つのヒント

「学校では教えない英語発音講座」
○小学生・中学生対象講座

2. 直面した課題と解決策

【課題①】

公共交通機関がバスしかなく、また、運行本数が少ないことからテレワーカーの移動が不便であった。

また、テレワーカーが宿泊された村内の旅館の門限があったことから、仕事時間の延長ができなかった。

→自転車の貸し出しや、レンタカーの提供
シェアオフィスでの宿泊の対応

【課題②】

生活直結サービスの文化教室や遠隔教育において、広報誌やホームページに掲載し募集したが、なかなか申込みが増えなかった。

→地元の地域活動されている方にお声をかけていただいたり、小・中学校の通常授業の一環として調整した。

3. その他

- ・NHK奈良県内向け番組
「ならナビ」 平成28年1月18日(月) 午後6時30分～
- ・NHK関西向け(2府4県)番組
「おはよう関西」 平成28年1月20日(水) 午前7時30分～

タイトル 「山村と都会を結ぶ“シェアオフィス”」

白浜町におけるパブリッククラウドサービスを活用した 先進的テレワーク推進及び生活直結サービス構築・検証事業

代表団体	NECソリューションイノベータ株式会社		
実施地域	和歌山県白浜町	地方移動人数/地元雇用人数 (目標)	地方移動人数:18人 地元雇用人数:SFDC社1名、パートナー4社:2~3名
地方進出企業	株式会社セールスフォース・ドットコム、株式会社バイキューブ、株式会社サンブリッジ、株式会社日本技芸、ブレインハーツ株式会社		
事業概要	<ol style="list-style-type: none"> クラウドサービスを有効活用したサテライトオフィスの整備及び新しいテレワークモデルの効果検証 クラウドサービスを活用した生活直結サービスモデルの検証 		
実証期間終了後の予定	サテライトオフィスは実証終了後も継続して活用予定		



1. 現在の進捗状況・これまでの成果

▶ テレワークの状況報告

進捗状況とこれまでの成果

- 平成27年10月15日 予定どおり各社のオフィスをオープン
- クラウドサービスによるテレワークシステム活用により短時間で導入完了
- 人の移動に関しても予定どおり



【これまでの成果】
目標である「あこがれの企業」となるための第一歩を踏み出せた

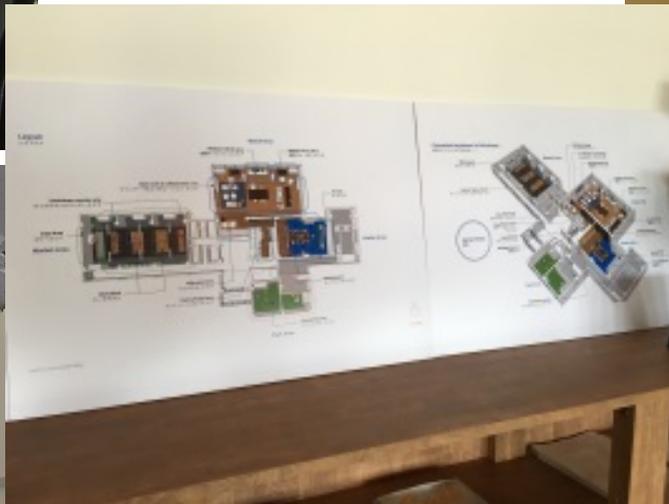
1. 現在の進捗状況・これまでの成果

▶ 平成27年10月15日 各社の白浜町ITサテライトオフィス開所式



1. 現在の進捗状況・これまでの成果

▶ Salesforce 様オフィスの内観



1. 現在の進捗状況・これまでの成果

▶ 白浜町ITビジネスオフィスの所在地

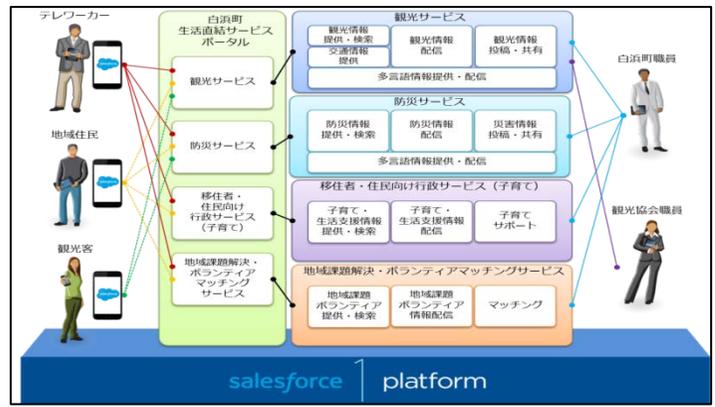


1. 現在の進捗状況・これまでの成果

▶ 生活直結サービスモデルの状況報告

進捗状況とこれまでの成果

- 生活直結サービスを平成27年12月に開発完了
- 行政と町民・県外の人達との新たなコミュニケーション環境を利用可能
 - 子育て・防災・マッチング
 - 行政から町民への情報提供および町民からの評価のフィードバック、2 Way方式の実現
 - 観光
 - 住民参加型の新たなコミュニケーション環境の構築



【これまでの成果】
白浜町が「あこがれの町」となるための布石を打つことが出来た

1. 現在の進捗状況・これまでの成果

▶ 生活直結サービスの全体像



【観光アプリ】



「白浜リンク」
起動後画面



【防災アプリ】



【子育てアプリ】



【マッチングアプリ】

1. 現在の進捗状況・これまでの成果

▶ 観光サービス

観光



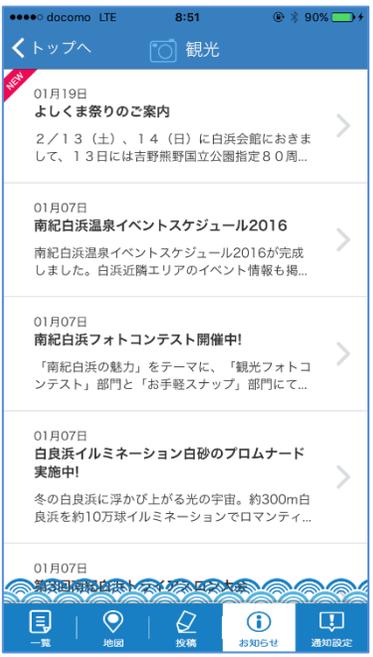
一覧



地図



投稿



お知らせ

1. 現在の進捗状況・これまでの成果

▶ 防災サービス

防災



一覧



地図



投稿



お知らせ

1. 現在の進捗状況・これまでの成果

▶ 子育てサービス

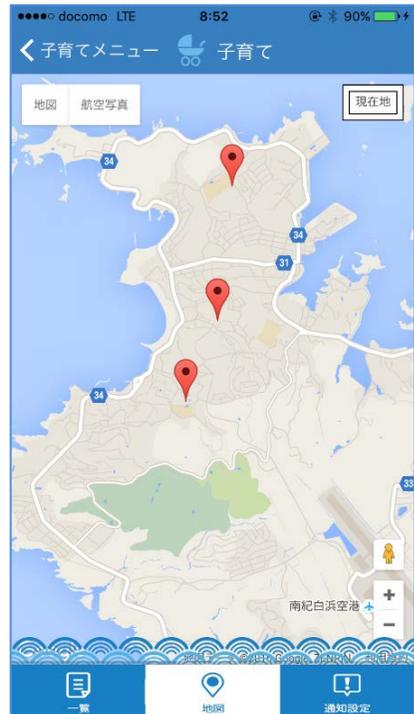
子育て



メニュー



一覧



施設マップ

1. 現在の進捗状況・これまでの成果

▶ ボランティアマッチングサービス

マッチング



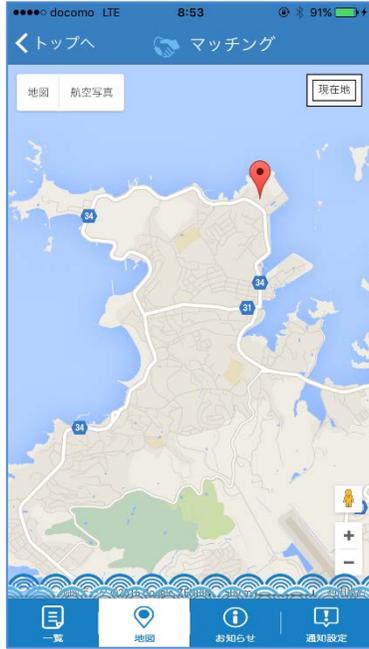
一覧



参加表明



コメント送信



地図

2. 直面した課題と解決策

課題	直面した課題	想定している解決策
1	生活直結サービスのアプリケーションの更なる改善につなげるためのサンプリング数が、期間が短かったこともあり十分に抽出できなかった。	<ul style="list-style-type: none">• 継続してアプリをより多くの人に使ってもらう（回覧版の利用、HPへの掲載、等）
2	今回の生活直結サービスを住民に毎日使っていただけるアプリにしていく必要がある	<ul style="list-style-type: none">• 課題1の結果をもとに本課題の対応へ着手する• アドバイザ（大学）とアプリの機能強化のアイデア出しを検討中

3. その他

■ サテライトオフィスの引き合い

- 本事業開始以降、当該サテライトオフィスへの入居希望に関する問い合わせがきており、来年度から1部屋入居が決まりつつある。本事業を実施したことによる知名度の向上および実施している事業、並びに和歌山県白浜町に魅力を感じたためと考えており、企業誘致の側面でも効果が出てくるのではないかと考えている

3. その他

メディア掲載実績

クラウド大手の米セールスフォース・ドットコム（東京・千代田）は10月、和歌山県白浜町にサテライトオフィスを開業する。7月15日に県や町と進出協定を結んだ。白浜町ITビジネスイノベーションセンターに設ける「白浜オフィス」で、電話による営業に取り組み、11人で業務をスタートする。リーダー役は家族とともに移住し、残りも3カ月ごとに白浜に転居する方針。その後は4人の地元雇用も行う予定。総務省が募集した「ふるさとテレワーク推進のための地域実証事業」の一環。IT（情報技術）を活用して、地方でも都市部と変わらず働くことができる環境を構築する試みだ。セールスフォースなど8社が共同で観光や防災など地域のニーズに合わせた情報提供サービスなども構築する。

テレワーク実践 白浜に拠点開設

米セールスフォース

平成27年7月16日

日経新聞近畿版

白浜にIT企業進出 「クラウド」世界最大手

いいね! シェア 1,888 ツイート 101

和歌山県白浜町は7日、世界最大手のクラウドサービス企業「セールスフォース・ドットコム」の日本法人（東京都千代田区）が同町に進出すると発表した。

同社はクラウドサービスを活用したシステムを開発し、さまざまな業種や規模の営業活動を支援、顧客管理などに利用されている。地方創生に向けてIT企業の地方進出を補助する総務省の「ふるさとテレワーク推進のための地域実証事業」に採択されたのを機に、近くに空港があることや自然環境の良さなどから白浜町を初の地方進出先に決めた。

同社は戦略的テレワーク拠点を白浜町に設置し、本社機能の一部を移転。生活に直結した観光や防災、子育てなどの行政情報提供サービスを開発し、効果を検証する。この実証事業には、テレビ・ウェブ会議の大手「ヴィキューブ」（東京都）などパートナー企業4社が協力、社員を移住、長期滞在させて参画する。地域の団体や大学などとも協力する。

3年間で地元から4人を雇用する。ほかに東京の本社から移住する常勤社員や長期派遣者が勤務する。7～9月に引っ越し、10月には業務を始める。

セールスフォース・ドットコムの日本法人は2000年設立。資本金4億円。

調印式は15日、県庁知事室であり、同社の川原均社長と仁坂吉伸知事、井瀬誠白浜町長が出席する。

同社が入る町のITビジネスオフィス（湯崎）には、昨年8月に進出した東京都に本社がある医療機器卸売業「メディスト」とNPO和歌山IT教育機構（田辺市）の2社が入っている。

平成27年7月8日

紀伊民報



1. 現在の進捗状況・これまでの成果

I とくしまテレワークサポートセンターの開設・運用

【進捗状況】

次の作業が完了し、1/18より運用を開始した。

- ①サーバ移転・再構築
- ②テレワーククラウドパッケージの開発(仮想デスクトップ・業務管理アプリ・グループウェアアプリ・ファイル管理アプリ・テレワーカー人材データベース・受注業務データベース)
- ③生活支援クラウドパッケージの開発(情報抽出/検索クローラー・生活支援クラウドポータルサイト)

【これまでの成果】

- ①クラウド利用会員数:70名に到達
- ②クラウド利用企業数:10団体に到達



1. 現在の進捗状況・これまでの成果

II 類型別テレワークの実証

《育成テレワーカー数: 類型A(1名)》

【進捗状況】

株式会社インフォクリエイツ ウェブアクセシビリティ検査部門(社内名称 検査課)の一部移転

①検査業務受注拡大 ②検査ツール(Libra)の機能改善 ③検査員検定試験の実施運営と検査員育成

【これまでの成果】

1 検査業務受注件数 **4件に到達**(総務省3,000頁, 徳島県60頁, 経済産業省150頁, 中国経済産業局56頁)

2 移転によるメリット/手応え

①地方に事業部門を設けることで, 地方の自治体のニーズをリサーチすることができ, 本業務の全国展開の弾みになった。

②移転先には, 資格を持った検査員が30名おり, その方達に対して, 検査ツール(Libra)の機能改善のヒアリングを綿密に行い, その結果を, 随時反映することで, 移転前より格段に作業効率が向上した。

3 検定試験合格者: **21名に到達**

ウェブアクセシビリティ検定試験受験者および実務レベルに到達する検査員は, 年間数名止まりであったが, 移転した部門で, ウェブアクセシビリティ研修や, オフサイトでの検定試験を企画・運営したことにより現時点で, 27名の受験者が合格を目指している。



1. 現在の進捗状況・これまでの成果

Ⅱ 類型別テレワークの実証

《類型C(5名)》

【進捗状況】

クリエイティブ工房の立ち上げとOJT訓練

本法人に所属する、意欲のある会員5名を選定し、テレワークチームを結成した。

鳴門市に存在する、空き家物件をコワーキングスペースとして開放し、OJTとセミナーを組み合わせて、「ウェブコンテンツ制作」「モバイルアプリ開発」の人材育成を実施した。

【これまでの成果】

アプリ開発セミナー開催数：**24回に到達**(合計120時間)

受注件数：**2件に到達**

①外国の子ども受け入れ手引きHPフィリピン語版(徳島県) ②サンショウウオ研究HP(県内, 個人)を受注。

※宅配弁当を扱う企業に対して、タブレット・スマホアプリの開発を提案し、検討を進めてくれている。



1. 現在の進捗状況・これまでの成果

Ⅱ 類型別テレワークの実証

≪類型D(1名)≫

【進捗状況】

株式会社トラストバンクの完全在宅雇用

同社は全国自治体のふるさと納税情報を提供するポータルサイト「ふるさとチョイス」を運営しており、Webの知識があり、クラウドサービスを使いこなし、業務に従事できる人材を求めている。

- ①ポータルサイトのコンテンツ更新/契約自治体とのメール連絡・調整(1名)
- ②社員勤務記録データのチェック・修正/ポータルサイトの契約自治体・一般利用者のメール対応(2名)

【これまでの成果】

雇用人数: **3名に到達**

- ①9月1日より、本会所属の会員(女性・障害者)が、3か月の試用雇用契約を結び、業務を開始した。試用雇用期間を過ぎ、本年1月から本採用になる。
- ②11月1日より、本会会員(女性・高齢)と、雇用契約を結び、業務を開始した。更に、12月21日より、本会会員(男性・障害者)と、雇用契約を結び、業務を開始した。先の雇用者の実績が認められ、試用雇用期間なしの雇用契約が実現した。



1. 現在の進捗状況・これまでの成果

Ⅲ とくしまテレワークサポートセンターによるテレワークサポート事業の実証

【進捗状況】

テレワーク/サテライトオフィスのサポート業務を実践する都市部の企業(株式会社ブレインワークス)の代表者・実務担当者との協議を実施した。

【これまでの成果】

テレワークコンサルティング: 1件に到達(電子書籍制作テレワークプロジェクト)

Ⅳ 徳島型テレワークの提案事業の実施

【進捗状況】

徳島県内の企業にテレワーククラウドパッケージを利用した「お試しテレワークプログラム」の実施提案を行った。

【これまでの成果】

お試しテレワーク実施件数: 8件に到達



2. 直面した課題と解決策

I テレワーク/サテライトオフィスの開設に際して

【直面した課題】

テレワーク/サテライトオフィスの設置場所である、鳴門市立川崎小学校(廃校舎)は、鳴門市の管理のもと、地域の自治会・コミュニティサークルが利用を始めていた。

テレワーク/サテライトオフィス設置に当たり、サーバ/ネットワーク機器・空調を24時間稼働させる必要があることから、同一建物内で電気契約の切り分けを進めたが、電気事業法により不可能であることが判明した。

【対策】

テレワーク/サテライトオフィスに通ずる配線に、本法人が、自己負担で電気メータを設置し、毎月、独自に検針し、本法人使用分の電気料金を、運営主(鳴門市)を支払うという取り決めをすることで、課題を解決した。

II お試しテレワークの提案に際して

【直面した課題】

お試しテレワークを提案した企業の中で、次の理由で、実施が中止になった事例がある。

- ①テレワークを導入したいが、社内規定がないために実施できない。
- ②プライバシーマークの取得、またはそれに匹敵する公的承認を取っている団体のシステムでなければ、テレワークを導入することは難しい。

【対策】

お試しテレワークの導入を決定した企業のサポート・アンケートを実施し、その結果を基に、導入事例のレポートを作成する。

3. その他

◆ 団体の理念

ミッションを団体名に冠して、平成11年4月に創設。
以来17年、障害者を中心とした「職業生活弱者」達とともに、
ICTとインターネットを活用し、「時間」と「場所」の制約から解放された、新しい「働き方」と「生き方」の
創出と実践に注力してきました。

◆ JCIが求める「テレワーク」

「職業生活弱者」が、社会的・経済的自立を実現するためには、「テレワーク」が、唯一の選択肢。
「職業生活弱者」に適した働き方・生き方は、だれにとっても望ましい生き方であるはず。

◆ 「とくしまテレワークサポートセンター」の運営理念

「テレワーカー各自が持つ、多様な要望に、きめ細かく対応し、「安心・安全」な環境で仕事に専念できる
システムの構築・運営を、関係者一同の共通理念とする。

1 テレワークに特化した、ICT基盤

①eラーニング機能 ②シンクライアント機能 ③業務管理機能

2 テレワークコーディネーター機能を担当する「人的組織」の整備

業務の受注から検品・納品・報酬分配までを、担当

3 正しい職業観と専門性の高い知識・技術を持つ、有能なテレワーカーの育成

4 テレワークの健全な発展に不可欠な、テレワークコーディネーターの育成と社会的信認の獲得

5 オンサイトヘルプ体制の確立

雇用契約に基づく在宅雇用で予想されるトラブルを防ぐため、雇用主が、オンサイトヘルプ(現地での就業支援)を
実施できる団体と契約し、業務の円滑な実施を支援する。

6 共同受注体制の構築

行政・企業などからの大量、タイトな納期、技術面での要求水準を超えるオファーなどが原因となる機会損失を
防ぐための対処である。

3. その他

◆ 徳島型テレワークについて

「徳島型」とは、テレワーカー1人ひとりが持つ、多様な状況と要望に、きめ細かく対応し、仕事に専念できるシステムの構築・運営を、関係者一同の共通理念とする、熱い血の通ったテレワークである。

◆ 関連事業との連動

1 「地域創生人材育成事業」

- ・テレワーカー育成(eラーニング方式, 全国からの受講)
- ・テレワークコーディネーター育成(雇用型)

2 子育てしやすい働き方促進事業

- ・全国展開のモデルとなる, 県内事業対象の, 「テレワークサポートセンター」活用モデル実験実証

3 Webアクセシビリティ診断事業の受注増大